

北九州市における性別による無意識の思い込み
(アンコンシャス・バイアス) に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和5年3月
北九州市

はじめに

北九州市では、平成 14 年に「北九州市男女共同参画社会の形成の推進に関する条例」を施行するとともに、平成 16 年より「北九州市男女共同参画基本計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた施策を推進しています。

また、SDGs 未来都市として、持続可能な開発目標 SDGs を強く推進しており、17 の目標のうち、「ジェンダー平等の実現」は重要なテーマの一つと捉えています。

これまで、男女共同参画について幅広い年代への啓発活動や政策方針決定過程における女性の参画拡大、さまざまな分野における女性リーダーの育成、ワーク・ライフ・バランスの推進などに取り組んできました。

しかしながら、依然として、市役所をはじめ市内企業における女性管理職の比率、自治会等の地域団体における女性役員比率は低い状況であり、社会全体における男女平等達成感も十分ではないという課題があります。

男女共同参画やジェンダー平等が進まない要因の一つとして、社会全体において固定的性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が影響していると言われています。また、国の「第 5 次男女共同参画基本計画」において、まち・ひと・しごと創造総合戦略の観点から「若年者、特に女性が流出し、地方においては深刻な人口流出や少子高齢化に直面している。」「地元が女性にとって働きにくい環境であるために東京に移動している可能性も指摘されている。」とあり、地方創生の視点からも、ジェンダー平等の実現や女性活躍推進が重要となっています。

そこで今回、北九州市民の「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に関する調査を実施し、全国や九州圏内と比較、検証することで、私たちの意識や実態を把握することとしました。

この調査結果についてはアンコンシャス・バイアスの解消を図るための基礎的なデータとして活用し、ジェンダー平等の実現につなげてまいりたいと考えています。

最後に、この調査を実施するにあたり御協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和 5 年 3 月

北九州市総務局女性の輝く社会推進室

目 次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査手法	1
4 回収数	1
5 調査期間	1
6 調査実施機関	1
7 注意事項	1
II 設問設計の概要	2
1 設問の構成	2
2 測定項目	3
III 回答者属性	4
1 性別	4
2 年齢	4
3 婚姻状況	4
4 職業、もしくは在学中の学校	4
(1) 職業	4
(2) <お勤めまたは自営業・自由業の方> 勤務形態	4
(3) <お勤め(正社員、正職員、嘱託、契約社員など)の方> 役職	4
(4) <学生の方> 就職で希望する勤務場所	4
5 最終学歴もしくは在学中の学校	5
6 中学校入学時点で居住していた地域	5
IV 調査結果	6
1 性別役割意識	6
(1) 全体	6
(2) 男女別	10
(3) 領域別	14
(4) 男女別・年代別	16
(5) 男女別・役職別	24
(6) 年代別・役職別	26
2 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	28
(1) 全体	28
(2) 男女別	32
(3) 男女別・年代別	34
3 性別役割を感じさせた人	38
(1) 男女別	38
4 地域における性別役割経験	41
(1) 地域からの移動有無別	41
(2) 学生の就職希望地別	43
5 メディアにおける性別役割の影響	44

(1) 家庭・コミュニティ領域	44
(2) 職場領域	45
(3) その他思い込みによる決めつけ	46
6 アンコンシャス・バイアスという言葉について	47
(1) 「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知状況	47
(2) 「アンコンシャス・バイアス」をどこで聞いたか	48
7 性別役割意識・経験の男女差比較	50
V まとめと今後の課題	51

I 調査概要

1 調査目的

アンコンシャス・バイアスについて、気づきの機会を提供し、理解を促すことでその解消を図るため、基礎的なデータの収集と分析を行う。

2 調査対象

北九州市に住む 17 歳以上の男女 3,000 名（無作為抽出）

3 調査手法

WEB アンケート調査

4 回収数

配付件数	有効回答件数	有効回答率
3,000 件	592 件	19.7%

5 調査期間

令和 4 年 10 月 1 日～31 日

6 調査実施機関

公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム

7 注意事項

- （1）図表中の「N」（Number of cases の略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数となる。
- （2）図表中の構成比は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にならないことがある。
- （3）回答が 2 つ以上ありうる場合（複数回答）は、合計が 100%を超えることがある。
- （4）性別の設問で「該当しない、回答したくない」を選択した回答者数は 8 人（全体の 1.4%）であり、全体の集計結果には、「該当しない、回答したくない」の回答者を含む。図表等では、「該当しない、回答したくない」の回答者の表示は省略している。
- （5）全国の調査結果については、内閣府「令和 3 年度性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」を参照している。
- （6）九州圏内結果については、北九州市立大学牛房義明（経済学部教授）・下田泰奈（地域創生学群 特任教員）が令和 4 年度に実施した「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の意識調査 – 全国調査と九州圏内調査の比較分析からの一考察 – 」から一部抜粋、参照している。

Ⅱ 設問設計の概要

1 設問の構成

本調査では、家庭・コミュニティ領域と職場領域での性別役割、その他性別に基づく思い込みの 36 項目について、最初に自分の考えに当てはまるかどうか尋ね、その後、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験を尋ねた。

性別役割意識	<ul style="list-style-type: none">測定項目に対する自身の意識（選択肢：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の 4 段階）
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	<ul style="list-style-type: none">測定項目について、直接または間接的に性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験の有無<ul style="list-style-type: none">【直接】直接言われたり聞いたりしたことがある【間接】直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある【メディアによる影響】テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある直接または間接的な経験があることについて、それを言ったり、感じさせた人
アンコンシャス・バイアスという言葉について	<ul style="list-style-type: none">「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っているか「アンコンシャス・バイアス」という言葉をどこで知ったか
属性設問	<ul style="list-style-type: none">基本属性（性別、年代、職業等）成長過程での影響を分析するために、中学入学時点での居住地、学生には就職で希望する勤務場所等を尋ねている

2 測定項目

家庭・コミュニティ領域	<ul style="list-style-type: none">• 家事・育児は女性がするべきだ• 男性が洗濯物を干すのはみっともない• 家を継ぐのは男性であるべきだ• 男性は結婚して家庭をもって一人前だ• 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ• 男性は仕事をして家計を支えるべきだ• 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ• 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ• 学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている• 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない• 男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ• PTA には、女性が参加するべきだ• 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ• 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ• 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ• デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
職場領域	<ul style="list-style-type: none">• 組織のリーダーは男性の方が向いている• 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい• 事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ• 職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ• 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない• 男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない• 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い• 営業職は男性の仕事だ• 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ• 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い• 転勤は男性がするものだ• 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ• 女性の上司には抵抗がある• 同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ• 女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない
その他	<ul style="list-style-type: none">• 女性は感情的になりやすい• 女性は論理的に考えられない• 男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない• 男性は人前で泣くべきではない• 女性には女性らしい感性があるものだ

Ⅲ 回答者属性

※上段：件数、下段：%

1 性別

N	男性	女性	該当しない、 回答したくない	無回答
592	229	351	8	4
100.0	38.7	59.3	1.4	0.7

2 年齢

N	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上	無回答
592	46	40	49	53	51	63	63	82	72	68	5
100.0	7.8	6.8	8.3	9.0	8.6	10.6	10.6	13.9	12.2	11.5	0.8

3 婚姻状況

N	未婚	結婚している (法律婚)	結婚している (事実婚)	法律婚も 事実婚も していないが パートナーと 暮らしている	離別	死別	無回答
592	211	322	10	6	33	6	4
100.0	35.6	54.4	1.7	1.0	5.6	1.0	0.7

4 職業

(1) 職業

N	お勤め (正社員、 正職員)	お勤め (嘱託、契約 社員など)	お勤め (派遣社員、 パート、 アルバイト)	自営業・ 自由業	家事手伝い	学生	無職	その他	無回答
592	294	34	101	28	7	58	52	13	5
100.0	49.7	5.7	17.1	4.7	1.2	9.8	8.8	2.2	0.8

(2) <お勤めまたは自営業・自由業の方>勤務形態

N	フルタイム 勤務 (フレックスタイ ム制を含む)	短時間勤務 (時短勤務)	無回答
457	356	87	14
100.0	77.9	19.0	3.1

(3) <お勤め(正社員、正職員、嘱託、契約社員など)の方>役職

N	役員クラス	部長クラス	部次長・部長 代理クラス	課長クラス	課長代理・ 係長クラス	一般社員	専門職	その他	無回答
328	15	12	8	28	36	177	43	7	2
100.0	4.6	3.7	2.4	8.5	11.0	54.0	13.1	2.1	0.6

(4) <学生の方>就職で希望する勤務場所

N	北九州市内	市外 (出身地)	市外 (出身地 以外)	わからない	無回答
58	21	4	15	18	-
100.0	36.2	6.9	25.9	31.0	-

5 最終学歴、もしくは在学中の学校

N	中学校	高校・高等専門学校	短大・専門学校（高卒後）	大学・大学院	その他	回答したくない	無回答
592	10	228	143	198	2	5	6
100.0	1.7	38.5	24.2	33.4	0.3	0.8	1.0

6 中学校入学時点で居住していた地域

N	北九州市内	市外	無回答
592	396	191	5
100.0	66.9	32.3	0.8

IV 調査結果

1 性別役割意識

(1) 全体

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を男女別に示した。

「女性には女性らしい感性があるものだ」が 67.7%と最も高く、次いで「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」が 60.5%、「女性は感情的になりやすい」が 57.3%と続いている。男女共に、上位 4 項目は 5 割前後の高い割合となっている。

測定項目全体を通して、36 項目の内、27 項目で男性の方が女性よりもポイントが高く、男性の方が性別役割意識が強いという結果になった。

36 項目の内、7 項目は男性の方が 10 ポイント以上高く、大きく男女差が開いた。その内、5 項目が「男性は～べきだ（～べきではない）」とするものであり、男性が自身の性別役割を強く意識している傾向がうかがえた。

- 「女性には女性らしい感性があるものだ」 男性 74.2%、女性 64.1%（+10.1%差）
- 「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」 男性 67.3%、女性 56.7%（+10.6%差）
- 「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」 男性 51.9%、女性 20.2%（+31.7%差）
- 「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」 男性 30.1%、女性 19.6%（+10.5%差）
- 「家を継ぐのは男性であるべきだ」 男性 32.3%、女性 18.0%（+14.3%差）
- 「男性は人前で泣くべきではない」 男性 31.4%、女性 13.9%（+17.5%差）
- 「PTA には、女性が参加すべきだ」 男性 17.9%、女性 7.5%（+10.4%差）

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

	男性の方が10pt以上高い
	女性の方が10pt以上高い

性別役割意識	回答者数：592	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性-女性
1 女性には女性らしい感性があるものだ		67.7	74.2	64.1	10.1
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		60.5	67.3	56.7	10.6
3 女性は感情的になりやすい		57.3	51.1	62.1	-11.0
4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		46.6	47.6	46.2	1.4
5 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		32.6	51.9	20.2	31.7
6 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ		26.4	25.3	27.4	-2.1
7 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ		25.4	21.9	28.2	-6.3
8 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ		24.7	27.5	23.3	4.2
9 男性は結婚して家庭をもって一人前だ		23.9	30.1	19.6	10.5
10 家を継ぐのは男性であるべきだ		23.3	32.3	18.0	14.3
11 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ		23.1	27.9	20.5	7.4
12 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ		22.7	25.8	21.4	4.4
13 男性は人前で泣くべきではない		20.8	31.4	13.9	17.5
14 家事・育児は女性がするべきだ		20.0	24.9	17.4	7.5
15 組織のリーダーは男性の方が向いている		19.5	22.3	17.9	4.4
16 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い		18.6	21.0	17.7	3.3
17 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		18.3	16.1	19.6	-3.5
17 男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ		18.3	20.5	17.4	3.1
19 男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない		15.4	13.1	17.4	-4.3
20 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ		14.0	11.4	15.9	-4.5
21 転職は男性がするものだ		12.6	14.0	11.7	2.3
21 女性は論理的に考えられない		12.6	12.2	13.4	-1.2
23 PTAには、女性が参加するべきだ		11.5	17.9	7.5	10.4
24 事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ		8.6	9.2	8.6	0.6
25 女性の上司には抵抗がある		8.3	12.7	5.4	7.3
26 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ		7.4	12.2	4.3	7.9
27 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い		7.1	10.5	4.8	5.7
28 女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない		6.7	5.3	7.7	-2.4
29 同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ		5.6	7.8	4.2	3.6
30 男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない		5.3	6.6	4.3	2.3
31 営業職は男性の仕事だ		4.9	6.1	3.7	2.4
32 学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている		4.7	6.1	4.0	2.1
33 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ		4.4	5.7	3.7	2.0
34 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない		2.7	3.5	2.0	1.5
35 職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ		2.5	3.0	2.3	0.7
36 男性が洗濯物を干すのはみっともない		2.3	2.2	2.6	-0.4

<九州圏内および全国との比較>

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を、九州圏内および全国の調査結果と比較した。

九州圏内および全国と比較すると、上位 12 位（具体的には上位 12 項目の内 8 項目）までは北九州市の方が高く、それ以降は九州圏内または全国の方が強い性別役割意識を持っているという傾向が読み取れた。

以下の項目は、九州圏内および全国の結果と比較し 10 ポイント以上の差がみられたものである。

<全国との比較>

- 「女性には女性らしい感性があるものだ」 北九州市 67.7%、全国 49.5%（+18.2%差）
- 「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」 北九州市 60.5%、全国 48.5%（+12.0%差）
- 「女性は感情的になりやすい」 北九州市 57.3%、全国 36.1%（+21.2%差）

<九州圏内・全国との比較>

- 「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」 北九州市 46.6%、九州圏内 36.1%、
全国 31.2%（九州圏内との差+10.5%、全国との差+15.4%）

また、順位の入替えはあるものの、北九州市および九州圏内、全国を比べると、上位 10 位には、ほとんど同じ項目が列挙された。ただし、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ」（北九州市 6 位）と「家を継ぐのは男性であるべきだ」（北九州市 10 位）の 2 項目は北九州市だけに入っており、九州圏内および全国には入っていない。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

	全国と比べて10pt以上高い
	九州圏内・全国と比べて10pt以上高い

性別役割意識 (全体)	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1.女性には女性らしい感性があるものだ	67.7	64.7	49.5
2.男性は仕事をして家計を支えるべきだ	60.5	59.9	48.5
3.女性は感情的になりやすい	57.3	54.0	36.1
4.育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	46.6	36.1	31.2
5.デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	32.6	33.3	29.6
6.親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	26.4	21.6	21.1
7.共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	25.4	22.9	24.0
8.共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	24.7	26.8	26.8
9.男性は結婚して家庭をもって一人前だ	23.9	24.9	25.4
10.家を継ぐのは男性であるべきだ	23.3	21.3	20.7
11.結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	23.1	20.7	20.2
12.受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	22.7	23.6	22.6
13.男性は人前で泣くべきではない	20.8	24.3	24.9
14.家事・育児は女性がするべきだ	20.0	27.8	26.1
15.組織のリーダーは男性の方が向いている	19.5	25.0	24.0
16.職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	18.6	18.0	19.6
17.大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	18.3	22.8	22.9
17.男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	18.3	20.3	21.2
19.男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない	15.4	22.4	18.9
20.自治会や町内会の重要な役割は男性が担うべきだ	14.0	16.8	19.3
21.転職は男性がするものだ	12.6	14.9	16.9
21.女性は論理的に考えられない	12.6	20.4	17.2
23.PTAには、女性が参加するべきだ	11.5	14.1	18.0
24.事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ	8.6	13.4	16.9
25.女性の上司には抵抗がある	8.3	10.4	14.6
26.男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	7.4	9.8	15.2
27.仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	7.1	10.0	13.9
28.女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	6.7	8.3	10.8
29.同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ	5.6	9.9	14.4
30.男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	5.3	9.5	12.5
31.営業職は男性の仕事だ	4.9	9.8	12.3
32.学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている	4.7	9.7	14.0
33.実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	4.4	9.7	12.5
34.女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	2.7	4.1	8.6
35.職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	2.5	9.9	13.9
36.男性が洗濯物を干すのはみっともない	2.3	5.6	10.1

(2) 男女別

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い順に男女とも10位までピックアップし、九州圏内および全国の調査結果と比較した。

北九州市の調査結果につき、男女それぞれの上位2項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が男性では約7割、女性も6割以上と非常に高い割合となった。

男女差が15ポイント以上開いたのは、「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（男性51.9%、女性20.2%）、「男性は人前で泣くべきではない」（男性31.4%、女性13.9%）の2項目である。

九州圏内および全国と比較すると、男女別では多くの項目で北九州市での調査結果の数値が最も高く、そのため最も性別役割意識が強いのではないかと考えられる。

上位項目は全国と比較しても高く、以下の項目では15ポイント以上の差がみられる。

<女性2位>「女性は感情的になりやすい」 北九州市62.1%、全国36.6%（+25.5%差）

<男性1位>「女性には女性らしい感性があるものだ」 北九州市74.2%、全国51.6%（+22.6%差）

<男性2位>「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」 北九州市67.3%、全国50.3%（+17.0%差）

<女性1位>「女性には女性らしい感性があるものだ」 北九州市64.1%、全国47.7%（+16.4%差）

<男性5位>「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」

北九州市47.6%、全国31.8%（+15.8%差）

<男性4位>「女性は感情的になりやすい」

北九州市51.1%、全国35.6%（+15.5%差）

<女性4位>「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」

北九州市46.2%、全国30.7%（+15.5%差）

順位に入れ替えはあるものの、男性では1～5位、女性では1～4位について、北九州市、九州圏内、全国ともに同じ項目が列挙された。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

男女両方で上位10位に入っている項目

男性 上位10項目	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1 女性には女性らしい感性があるものだ	74.2	67.9	51.6
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	67.3	63.8	50.3
3 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	51.9	43.6	37.3
4 女性は感情的になりやすい	51.1	50.3	35.6
5 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	47.6	35.8	31.8
6 家を継ぐのは男性であるべきだ	32.3	25.6	26.0
7 男性は人前で泣くべきではない	31.4	32.9	31.0
8 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.1	30.7	30.3
9 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	27.9	24.5	23.5
10 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	27.5	27.8	29.8

回答者数：北九州市 229 九州圏内 489 全国 5,069

女性 上位10項目	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1 女性には女性らしい感性があるものだ	64.1	61.6	47.7
2 女性は感情的になりやすい	62.1	57.5	36.6
3 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	56.7	56.2	47.1
4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	46.2	36.4	30.7
5 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ	28.2	23.3	23.2
6 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	27.4	19.6	18.1
7 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	23.3	25.8	23.8
8 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	21.4	19.6	20.1
9 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	20.5	17.0	17.0
10 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	20.2	23.5	22.1

回答者数：北九州市 351 九州圏内 511 全国 5,165

<若年層（10～30代）の男女比較>

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合に関して、10～30代の男性と10～30代の女性の結果を比較した。

近年、若年層の地方から大都市圏への転入超過が増大しており、地方において特に少子高齢化が課題となっている。性別によるアンコンシャス・バイアスの影響もあるのではないかと考え、若年層の調査結果に着目した。

10～30代の若い世代（以下、若年層）においては、全年代と比較して、多くの項目で男女間の性別役割意識の差が小さいという結果になった。※（ ）は男性—女性

- 「女性には女性らしい感性があるものだ」 若年層 男性 57.2%、女性 56.4%（+0.8差）
【全年代 男性 74.2%、女性 64.1%（+10.1差）】
- 「男性は仕事をして家庭を支えるべきだ」 若年層 男性 55.9%、女性 51.3%（+4.6差）
【全年代 男性 67.3%、女性 56.7%（+10.6差）】

それでも、若年男性は若年女性に比べ、

- 「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」 男性 39.0%、女性 21.5%（+17.5%差）
- 「男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ」 男性 28.6%、女性 16.5%（+12.1%差）
- 「男性は人前で泣くべきではない」 男性 27.3%、女性 6.3%（+21.0%差）

で特に高い割合となっている。

一方で、若年女性は若年男性に比べ、

- 「女性は感情的になりやすい」 男性 40.3%、女性 60.8%（-20.5%差）
- 「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」
男性 13.0%、女性 26.6%（-13.6%差）

で特に高い割合となっており、若年層も、男女とも自身の性別役割を強く意識している傾向がうかがえた。

結婚観にも直結する「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「家を継ぐのは男性であるべきだ」「家事・育児は女性がするべきだ」等の価値観は、若年女性に比べ、若年男性の方が高い傾向がみられた。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

	男性の方が10pt以上高い
	女性の方が10pt以上高い

性別役割意識	10-30代全体	10-30代男性	10-30代女性	男性-女性
	回答者数：239 (%)	回答者数：77 (%)	回答者数：158 (%)	
1 女性には女性らしい感性があるものだ	56.5	57.2	56.4	0.8
2 女性は感情的になりやすい	54.0	40.3	60.8	-20.5
3 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	52.7	55.9	51.3	4.6
4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	47.3	44.2	49.4	-5.2
5 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	27.2	39.0	21.5	17.5
6 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	23.8	18.2	27.2	-9.0
7 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	21.8	18.2	24.1	-5.9
8 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ	21.7	13.0	26.6	-13.6
9 組織のリーダーは男性の方が向いている	20.5	24.7	19.0	5.7
10 男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	20.1	28.6	16.5	12.1
11 家を継ぐのは男性であるべきだ	18.4	24.7	15.9	8.8
12 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	17.9	16.9	19.0	-2.1
13 家事・育児は女性がするべきだ	17.2	22.1	15.2	6.9
14 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	15.9	19.5	13.9	5.6
15 男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない	15.1	15.6	15.2	0.4
16 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	14.2	19.5	11.4	8.1
17 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	13.8	11.7	15.2	-3.5
18 男性は人前で泣くべきではない	13.4	27.3	6.3	21.0
19 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	12.6	11.7	13.3	-1.6
20 女性は論理的に考えられない	11.3	9.1	12.7	-3.6
21 転職は男性がするものだ	10.5	14.3	8.8	5.5
22 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	9.6	7.8	10.8	-3.0
23 PTAには、女性が参加するべきだ	9.2	13.0	7.6	5.4
24 女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	8.8	3.9	11.4	-7.5
25 事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ	8.4	9.1	8.2	0.9
26 女性の上司には抵抗がある	6.7	7.8	5.7	2.1
27 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	6.3	13.0	3.2	9.8
28 学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている	5.4	6.5	5.0	1.5
29 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	5.0	10.4	2.5	7.9
30 営業職は男性の仕事だ	4.6	6.5	3.8	2.7
30 男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	4.6	7.8	2.5	5.3
32 同程度の實力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ	4.2	9.1	1.9	7.2
33 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	3.3	6.5	1.9	4.6
34 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	2.5	3.9	1.9	2.0
35 男性が洗濯物を干すのはみっともない	1.2	1.3	1.3	0.0
35 職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	1.2	1.3	1.3	0.0

(3) 領域別

領域別の性別役割意識について、男女別に上位 5 項目を示し、九州圏内および全国の調査結果と比較した。

<家庭・コミュニティ領域>

家庭・コミュニティ領域に関して、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」は男女ともに上位 5 位以内に入っている。

男性では「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」や「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」に代表されるように「男性が～べき」という項目が高い。

一方女性では、「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」や「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」というような「女性が～べき」という項目で高い傾向が出た。

九州圏内および全国との比較では、男女ともに 1 位の「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」は全国と比べ、男性で 17.0%、女性で 9.6%高い。

九州圏内および全国の上位 5 位には入っていないが、北九州市では上位となっている項目があり、男性では「家を継ぐのは男性であるべきだ」(3 位)と「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」(5 位)が、女性では「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」(3 位)と「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」(5 位)がランクインした。

ここから、北九州市では「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」に代表されるような「大黒柱バイアス」(「男性が稼ぎ頭として家族を支えるべき」という固定観念)に基づく考え方や、家父長制的家族観(女性が姓を変え、男性家長の家に嫁ぐという家族観)が強いことが読み取れる。

また、北九州市では「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」が女性の 3 位に浮上していることの背景に、親戚や地域住民のコミュニティ内で女性に期待される性別役割意識が高いことが関係していると推察される。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

男性 上位5項目	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	67.3	63.8	50.3
2 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	51.9	43.6	37.3
3 家を継ぐのは男性であるべきだ	32.3	25.6	26.0
4 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.1	30.7	30.3
5 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	27.9	24.5	23.5

回答者数：北九州市 229 九州圏内 489 全国 5,069

女性 上位5項目	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	56.7	56.2	47.1
2 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	28.2	23.3	23.2
3 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	27.4	19.6	18.1
4 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	23.3	25.8	23.8
5 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	20.5	17.0	17.0

回答者数：北九州市 351 九州圏内 511 全国 5,165

<職場領域>

職場領域では、男女とも「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」が 5 割弱と、他の項目に比べて高い結果となった。女性のキャリア形成を阻む原因の一つであると考えられる。

順位は異なるものの、男女とも上位 5 項目が同じとなった。「お茶だしなどの対応」や「お茶くみ」等の項目も上位となり、これらの性別役割意識を感じる人もいまだ 2 割前後にのぼっている。

上位 5 項目について、順位の入れ替えはあるものの、男女ともに九州圏内および全国の調査結果と同じ項目が占めた。男女ともに上位 2 項目は全国よりも北九州市の方が高い割合だが、3 位以下は低いか同程度である。前ページ (p.14) に示した家庭・コミュニティ領域の方が、職場領域よりも性別役割意識が顕著に出た結果となった。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

男性 上位5項目	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	47.6	35.8	31.8
2 受付、接客・対応（お茶だしなど）は女性の仕事だ	25.8	27.8	25.1
3 組織のリーダーは男性の方が向いている	22.3	28.0	25.7
4 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	21.0	21.5	22.2
5 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	16.1	22.3	23.5

回答者数：北九州市 229 九州圏内 489 全国 5,069

女性 上位5項目	北九州市 (%)	九州圏内 (%)	全国 (%)
1 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	46.2	36.4	30.7
2 受付、接客・対応（お茶だしなど）は女性の仕事だ	21.4	19.6	20.1
3 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	19.6	23.3	22.4
4 組織のリーダーは男性の方が向いている	17.9	22.1	22.4
5 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	17.7	14.7	16.9

回答者数：北九州市 351 九州圏内 511 全国 5,165

(4) 男女別・年代別

性・年代別の性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が最も高い属性と、最も低い属性をピックアップし、その差を分析した。

家庭・コミュニティ領域では、16 項目中 8 項目で性別・年代間の差が 30 ポイント以上開いたのに対し、職場領域では 15 項目中 2 項目のみであり、男女別・年代別でも、家庭・コミュニティ領域の方がより顕著に意識の差が表れた。

次ページ以降では、性別・年代間で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合に大きな差がある項目の中から、特徴的な傾向がみられる項目をピックアップして分析している。

＜「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の性別・年代間の差＞

最も高い属性と最も低い属性の間に30pt以上の差がある項目

	項目	最も高い (%)	最も低い (%)	性・年代間の差 (最も高い)-(最も低い)
家庭・コミュニティ	家事・育児は女性がすべきだ	男性_60代以上 32.4	女性_20代 9.4	23.0
	男性が洗濯物を干すのはみっともない	女性_50代 4.7	男性_10代 男性_30代 女性_10代 女性_20代	4.7
	家を継ぐのは男性であるべきだ	男性_40代 42.6	女性_10代 10.0	32.6
	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	男性_60代以上 43.2	女性_20代 4.7	38.5
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	男性_40代 38.3	男性_10代 女性_10代	31.6
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	男性_50代 79.4	女性_10代 40.0	39.4
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	女性_50代 40.0	女性_20代 3.1	36.9
	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	女性_10代 33.3	男性_30代 10.5	22.8
	学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている	男性_10代 13.3	女性_60代以上 0.0	13.3
	女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	男性_20代 8.4	男性_10代 女性_60代以上	8.4
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	男性_10代 53.3	男性_60代以上 8.1	45.2
	PTAには、女性が参加するべきだ	男性_40代 25.5	女性_40代 3.9	21.6
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	女性_30代 37.6	男性_10代 0.0	37.6
	自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	女性_50代 27.0	男性_10代 女性_10代	27.0
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がすべきだ	男性_60代以上 10.8	男性_40代 女性_10代	10.8
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	男性_50代 63.2	女性_60代以上 3.3	59.9	
職場	組織のリーダーは男性の方が向いている	男性_10代 33.4	女性_10代 3.3	30.1
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	女性_50代 30.6	男性_10代 女性_10代	23.9
	事務作業などの簡単な仕事は女性がすべきだ	男性_10代 20.0	女性_60代以上 0.0	20.0
	職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	男性_50代 5.9	男性_10代 男性_30代 男性_40代 女性_10代 女性_20代 女性_60代以上	5.9
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	女性_30代 59.4	女性_60代以上 33.4	26.0
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	男性_30代 15.8	男性_10代 男性_20代 女性_20代	15.8
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	男性_30代 21.1	男性_20代 0.0	21.1
	営業職は男性の仕事だ	男性_10代 20.0	女性_10代 女性_60代以上	20.0
	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	男性_50代 38.3	男性_10代 6.7	31.6
	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	女性_50代 28.3	男性_20代 8.3	20.0
	転職は男性がするものだ	女性_60代以上 20.0	女性_10代 3.3	16.7
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	男性_30代 18.4	男性_20代 0.0	18.4
	女性の上司には抵抗がある	男性_60代以上 21.6	男性_20代 女性_10代 女性_60代以上	21.6
	同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ	男性_10代 13.3	女性_10代 女性_20代	13.3
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	女性_30代 12.5	男性_10代 男性_20代	12.5
その他	女性は感情的になりやすい	女性_30代 73.4	男性_10代 33.3	40.1
	女性は論理的に考えられない	男性_40代 21.2	男性_30代 5.3	15.9
	男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない	女性_40代 22.4	女性_10代 10.0	12.4
	男性は人前で泣くべきではない	男性_40代 42.5	女性_10代 0.0	42.5
	女性には女性らしい感性があるものだ	男性_50代 83.9	女性_10代 46.7	37.2

<家庭・コミュニティ領域>

● 特に男性における役割意識が高い項目

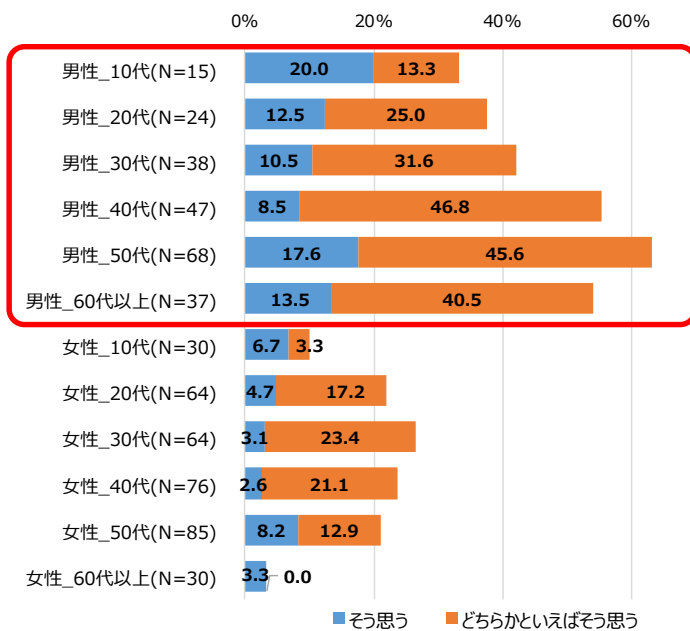
「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」は男性の方が性別役割意識が特に高く、40代以上の男性では5～6割台にのぼっている。一方で、女性は全体でも2割程度である。

「家を継ぐのは男性であるべきだ」は男性の方が総じて性別役割意識が高く、40～50代の男性では4割前後にのぼる。

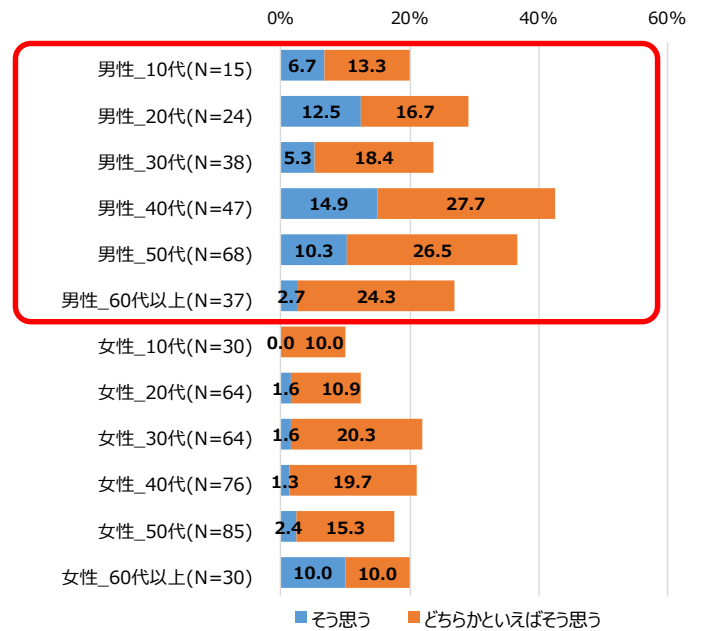
「家事・育児は女性がするべきだ」は20代、40代、60代以上の男性で3割前後と特に高い。

「男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ」は若い男性で特に高い傾向がみられる。大学の進路選択に迫られるタイミングで、当事者として性別役割を強く意識していることが推察される。

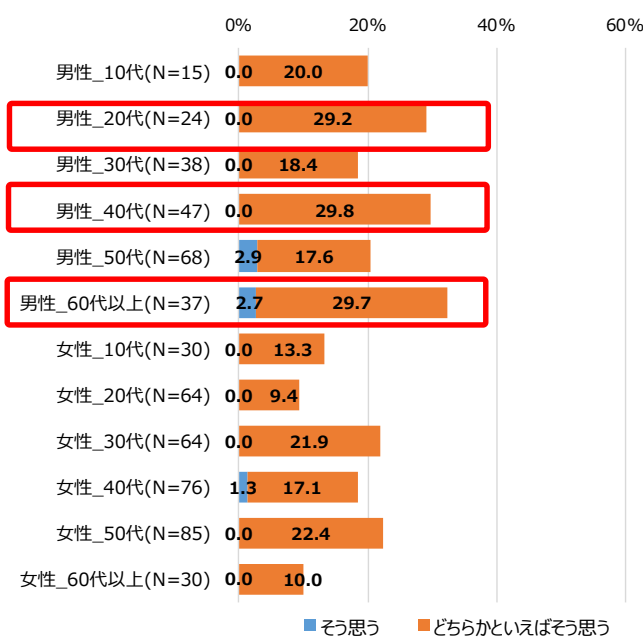
【デートや食事のお金は男性が負担すべきだ】



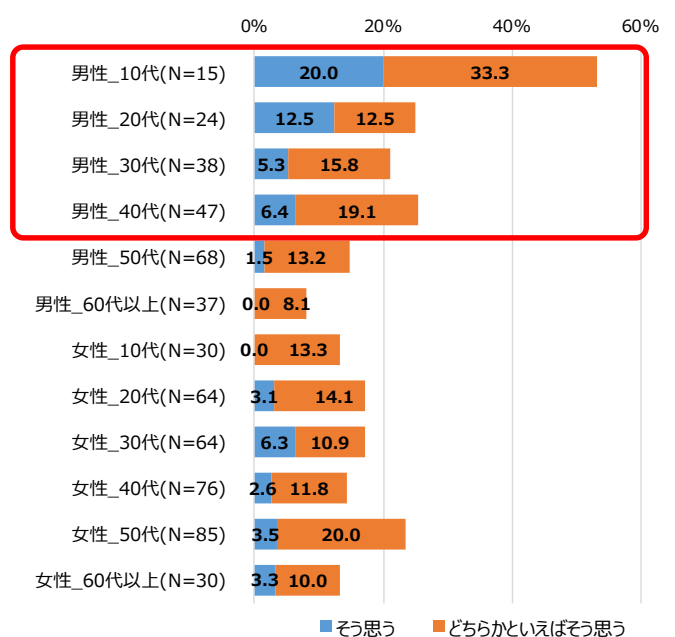
【家を継ぐのは男性であるべきだ】



【家事・育児は女性がするべきだ】



【男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ】

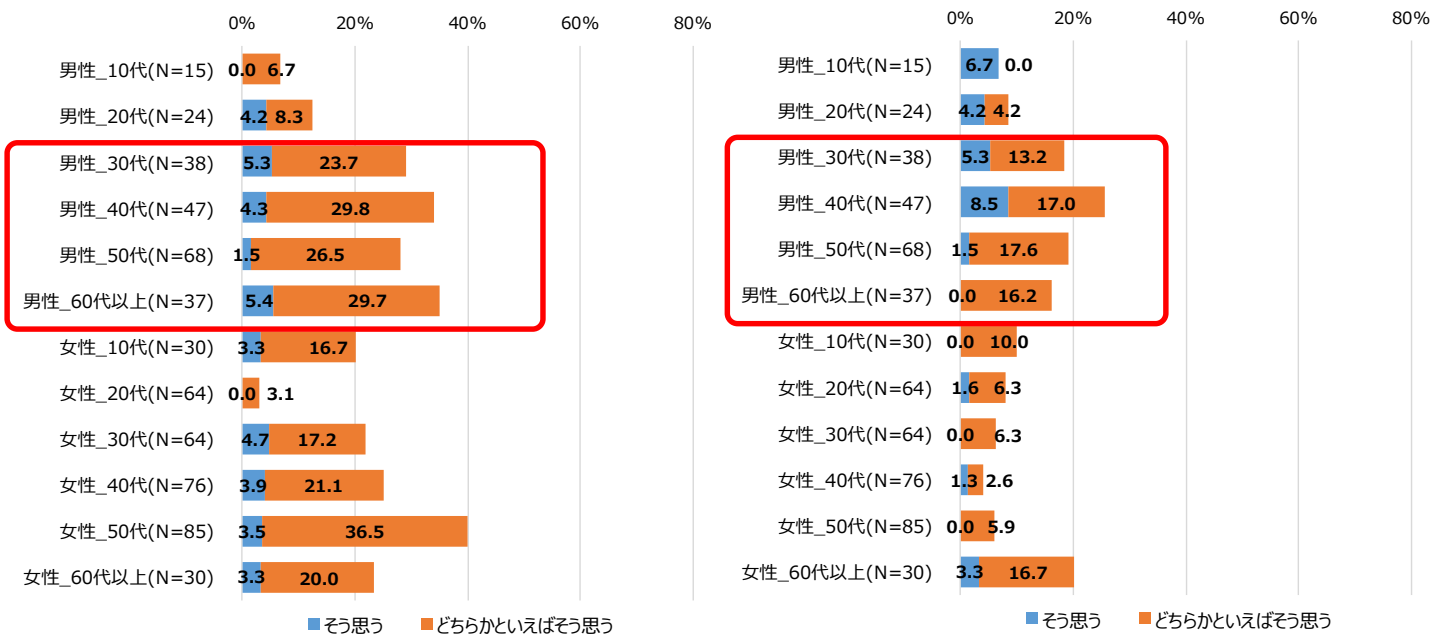


● 特に 30 代以上の男性における役割意識が高い項目

「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」は 30 代以上の男性で 3 割前後と高い。また、50 代女性でも「そう思う」が 4 割に達している。
 「PTA には、女性が参加するべきだ」は 30 代以上の男性で特に高い傾向がみられる。

【共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ】

【PTA には、女性が参加するべきだ】

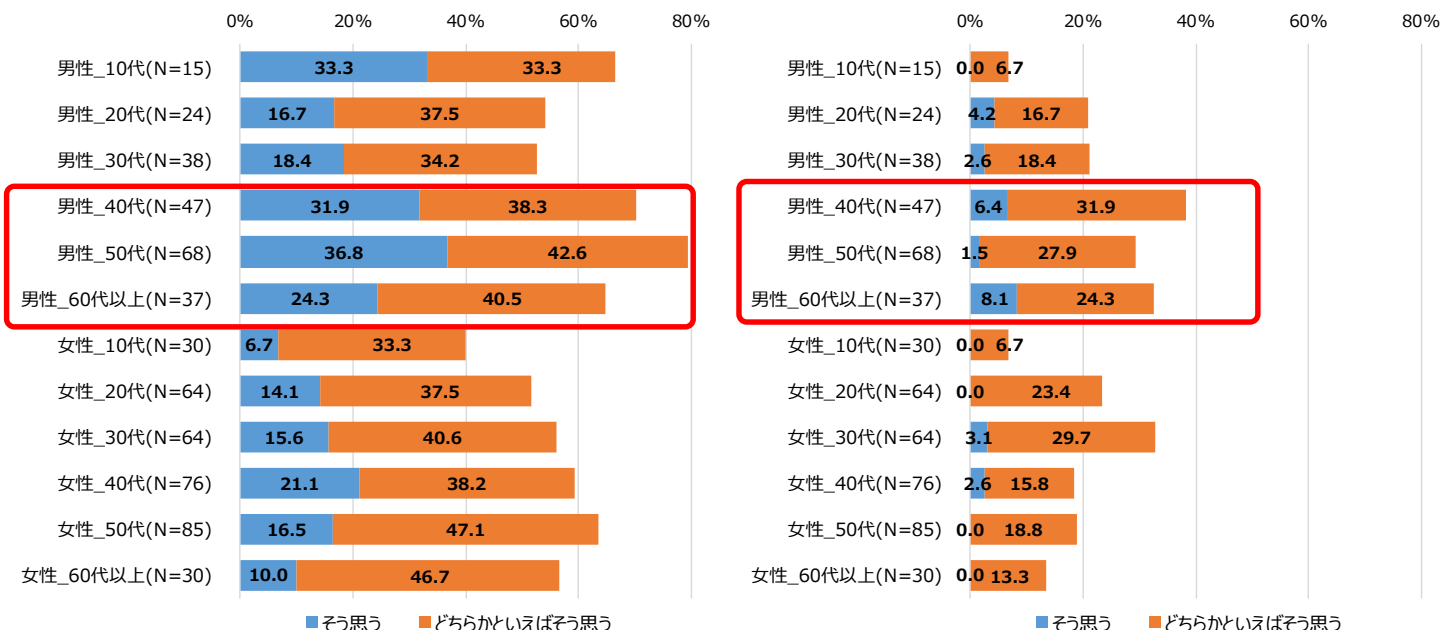


● 特に 40 代以上の男性における役割意識が高い項目

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」は全体的に性別役割意識が強く、特に 40 代以上の男性で高い傾向がみられる。
 「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」は 40 代以上の男性で 3 割前後と特に高い。また、30 代女性でも 3 割を超えている。

【男性は仕事をして家計を支えるべきだ】

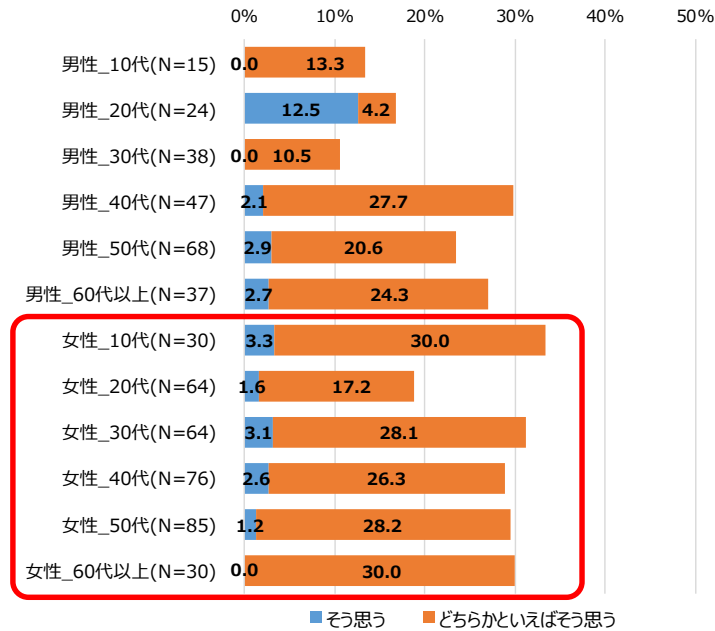
【結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ】



● 特に女性における役割意識が高い項目

「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」は全般的に女性における役割意識が強い。40代のみ男性の方がわずかに高くなっている。

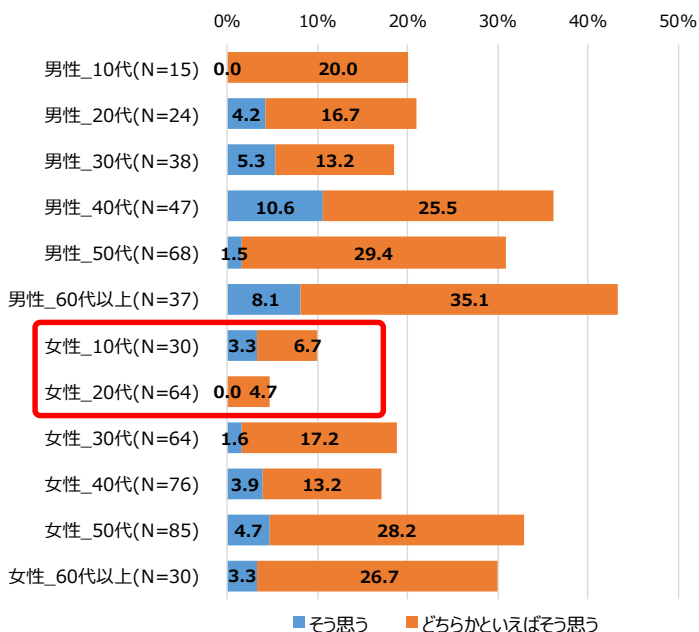
【共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ】



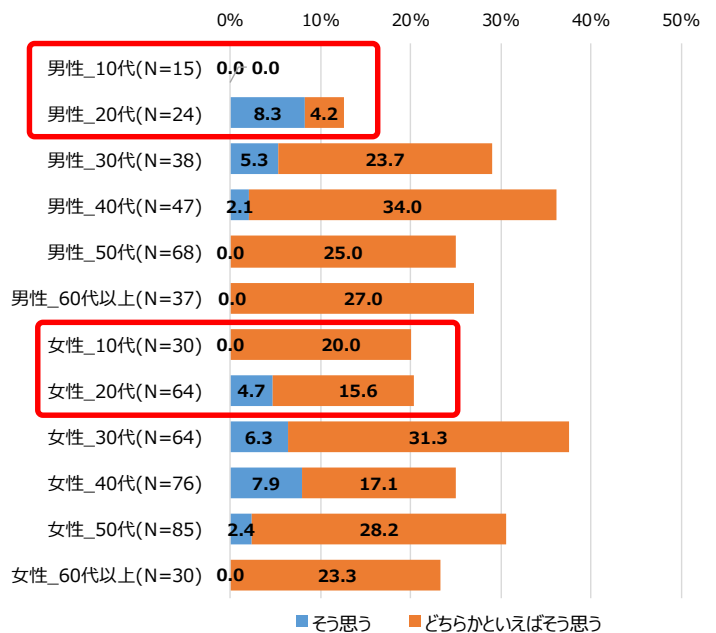
● 10～20代と30代以上の間でギャップが大きい項目

「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」は10～20代女性で性別役割意識が低い。
 「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は若年層（10～20代）と30代以上との間でギャップがあり、10～20代の男性では特に低い傾向がみられる。

【男性は結婚して家庭をもって一人前だ】



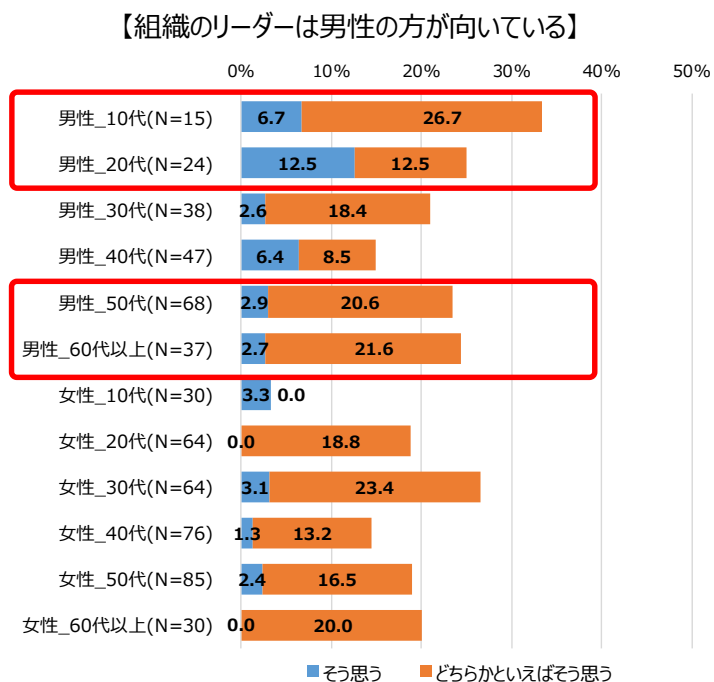
【親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ】



<職場領域>

● 特に男性における役割意識が高い項目

「組織のリーダーは男性の方が向いている」は、総じて男性の方が高く、10～20代男性と50代以上の男性で特に高い。30代のみ女性の方が高くなっている。



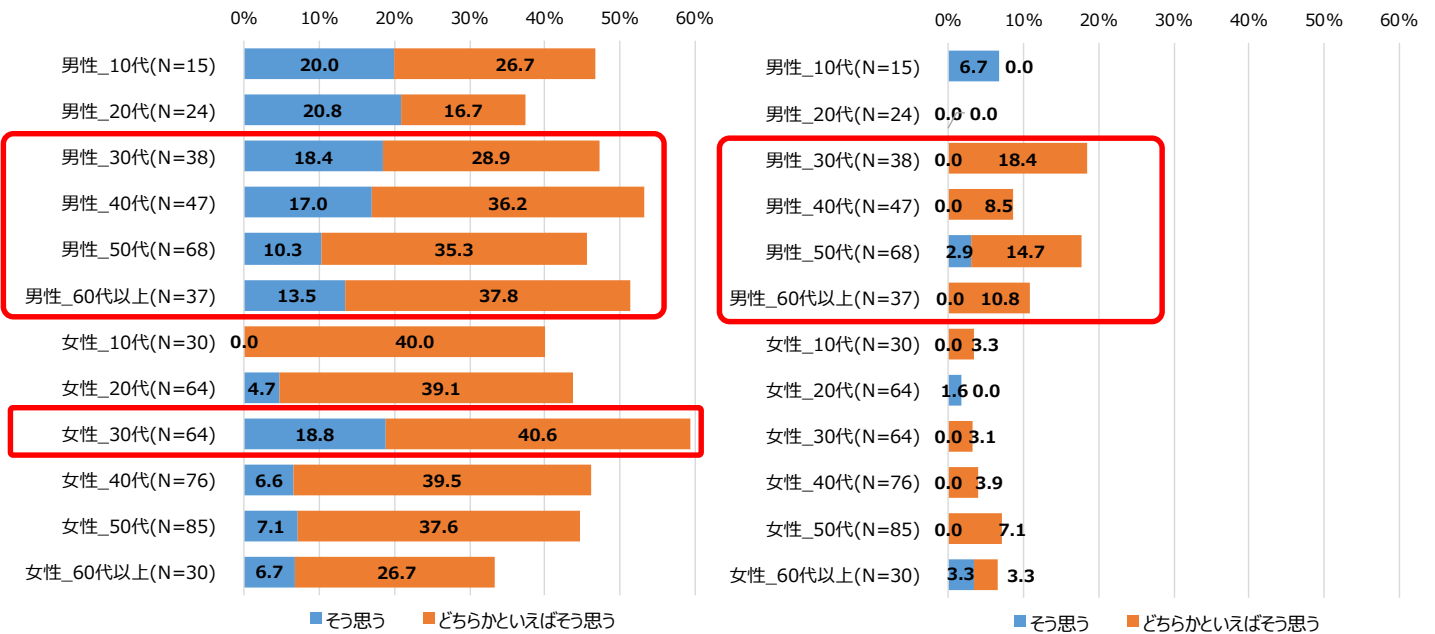
● 特に 30 代以上の男性における役割意識が高い項目

「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」は、全体的に性別役割意識が高く、30 代以上の男性で高い傾向がみられる。しかし当事者になりうる 30 代女性がもっとも高い結果となり、30 代では男女両方において同項目に対する性別役割意識が高いことが示された。

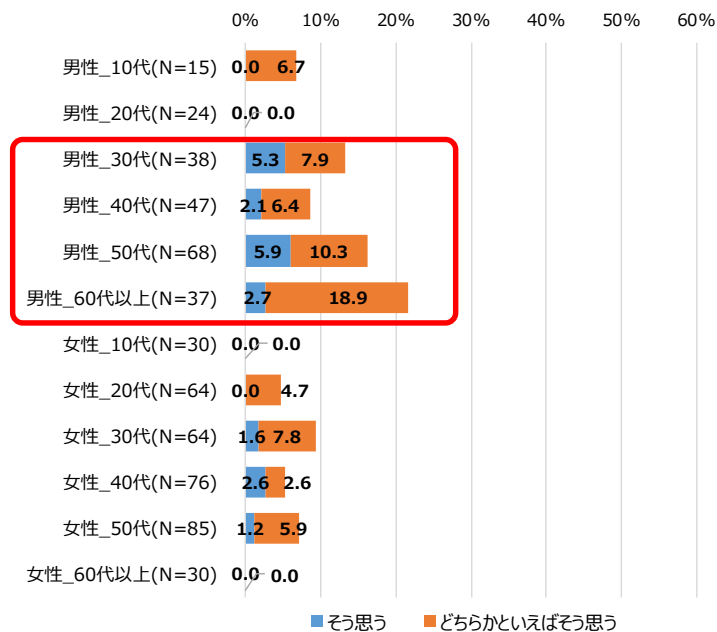
「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」「女性の上司には抵抗がある」は、ともに 30 代以上の男性で高い。

【育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない】

【男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ】



【女性の上司には抵抗がある】



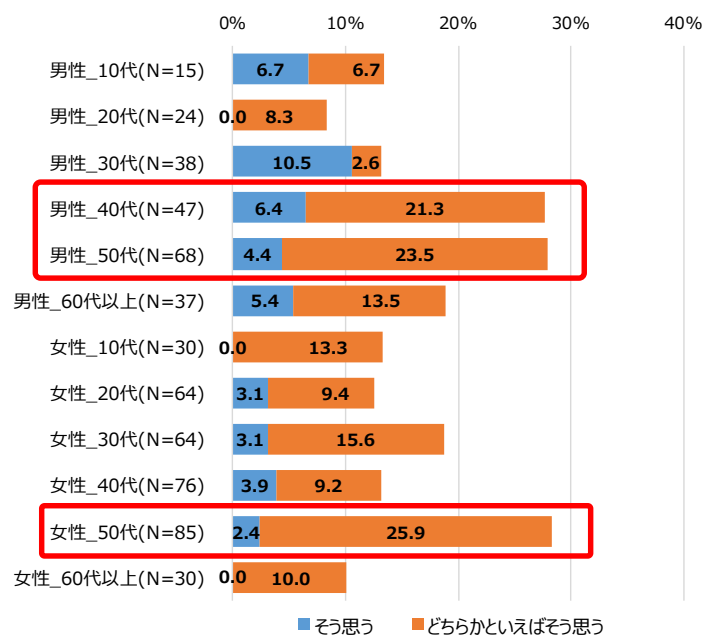
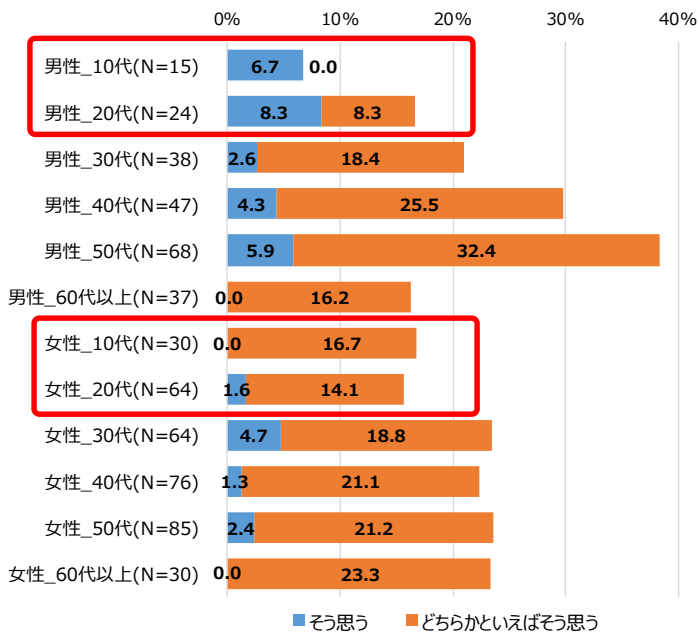
● 世代間のギャップが大きい項目

「受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ」は、10～20代では性別役割意識が低い傾向がみられる。一方、50代男性では4割弱と他の性・年代に比べて高くなっている。

「職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い」は、40～50代男性と50代女性で高く、受付、接客・応対（お茶出しなど）が女性の仕事であるという意識は若い世代で薄れつつあることが見受けられる。

【受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ】

【職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い】



(5) 男女別・役職別

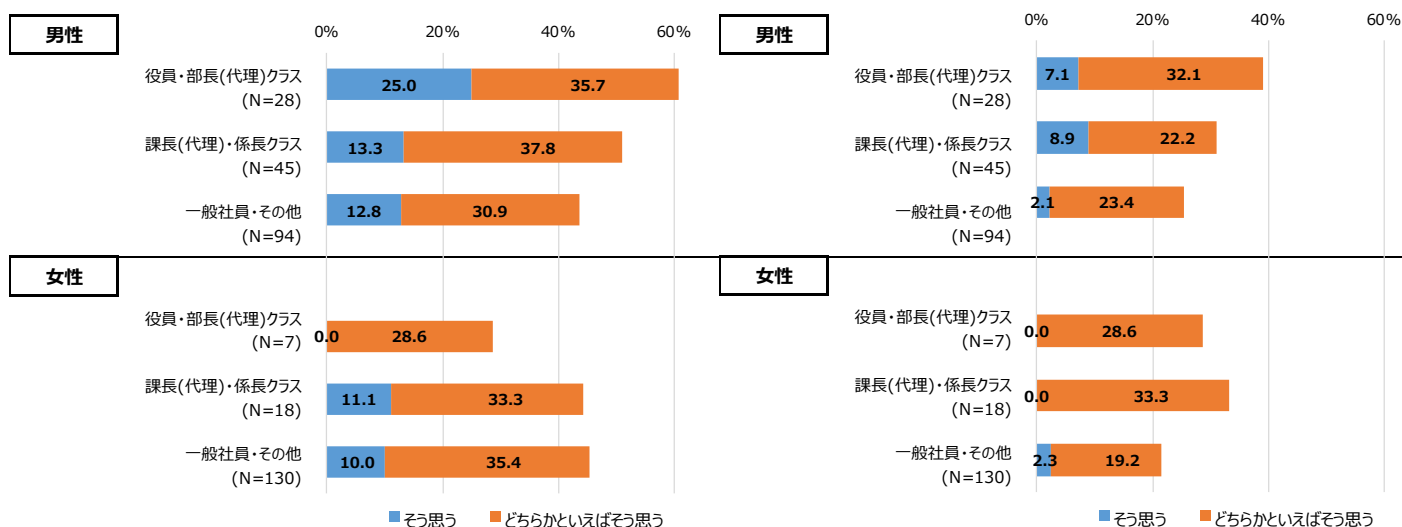
男女別・役職別の職場領域における性別役割意識について、役職間で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合に大きな差がある項目の中から、特徴的な傾向がみられる項目をピックアップした。

「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」は、特に男性の役員・部長(代理)クラスで高い傾向がみられる。女性の役員・部長(代理)クラスと比較すると、男女間に大きな差がみられた。

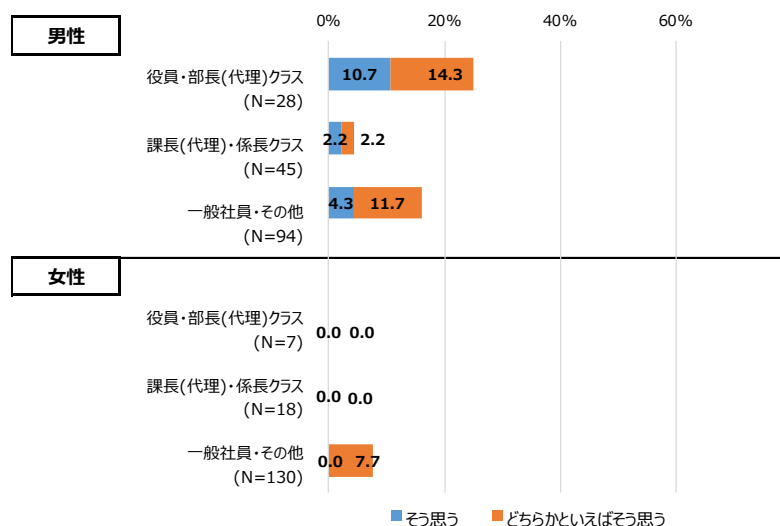
「受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ」は、男性の役員・部長(代理)クラスでやや高い。

「女性の上司には抵抗がある」は全体的に男性の方が高く、特に役員・部長(代理)クラスで高い結果となった。

【育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない】 【受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ】

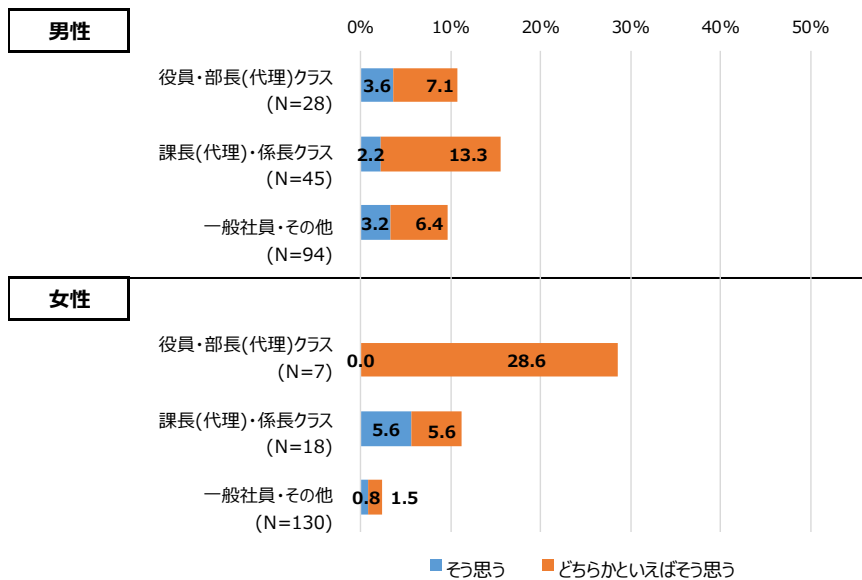


【女性の上司には抵抗がある】

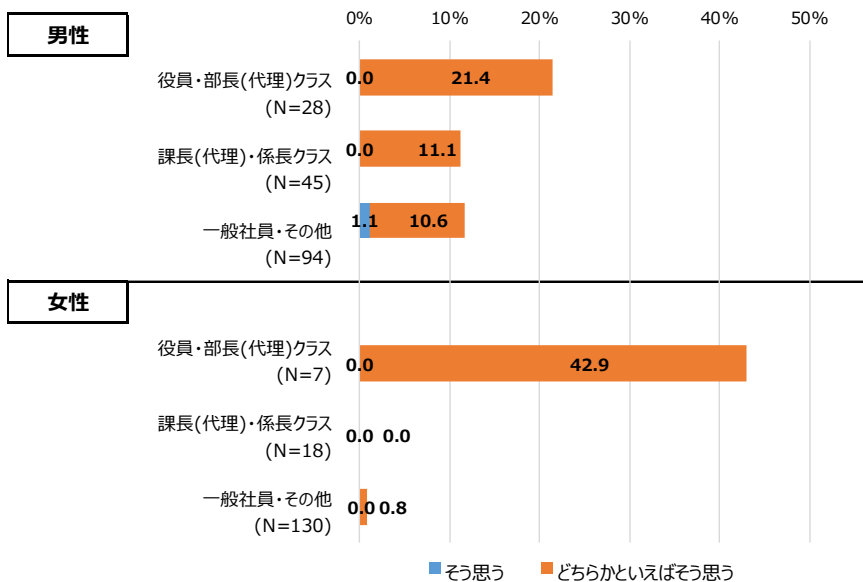


「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」は、女性の役員・部長(代理)クラスで特に高い。
 「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」は、男女とも役員・部長(代理)クラスで高い傾向がみられ、特に女性の役員・部長(代理)では4割強が性別役割意識を感じている。

【仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い】



【男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ】

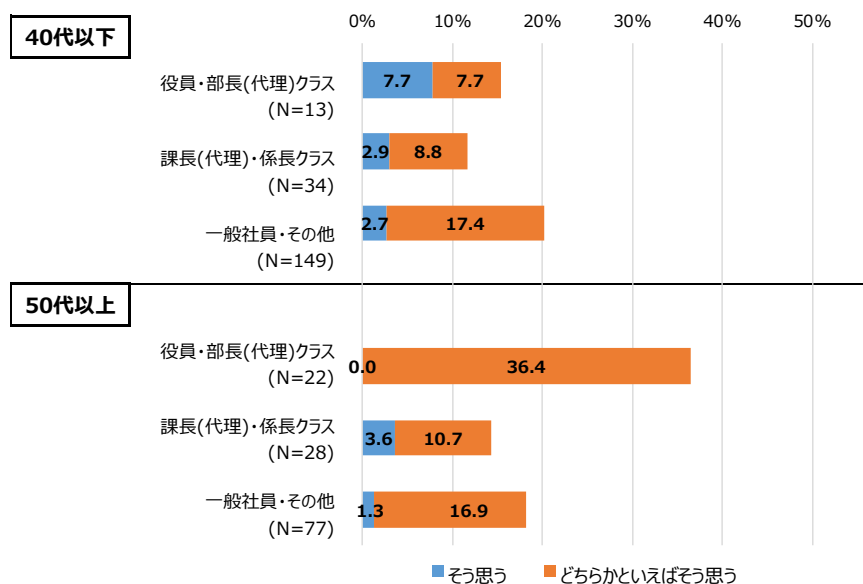


(6) 年代別・役職別

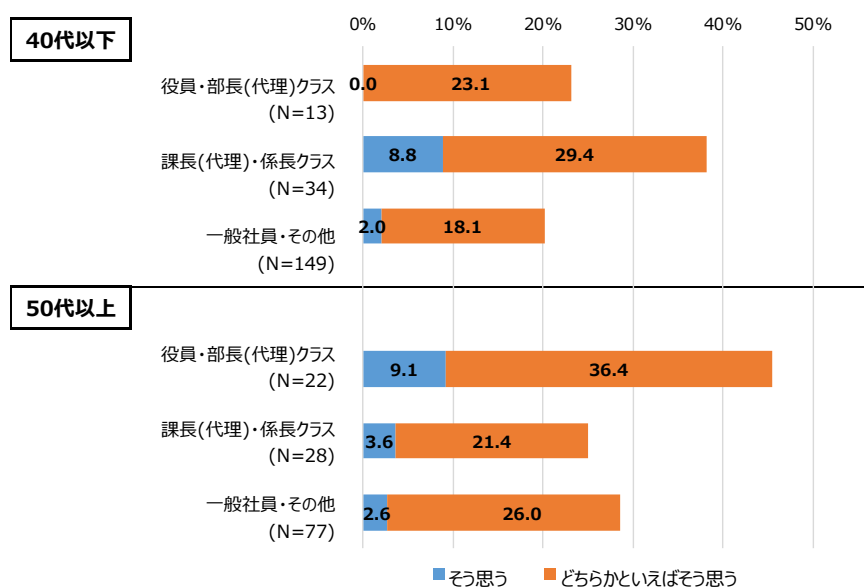
年代別・役職別の職場領域における性別役割意識について、役職間で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合に大きな差がある項目の中から、特徴的な傾向がみられる項目をピックアップした。

「組織のリーダーは男性の方が向いている」「受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ」は、特に50代以上の役員・部長(代理)クラスで高い傾向がみられる。

【組織のリーダーは男性の方が向いている】



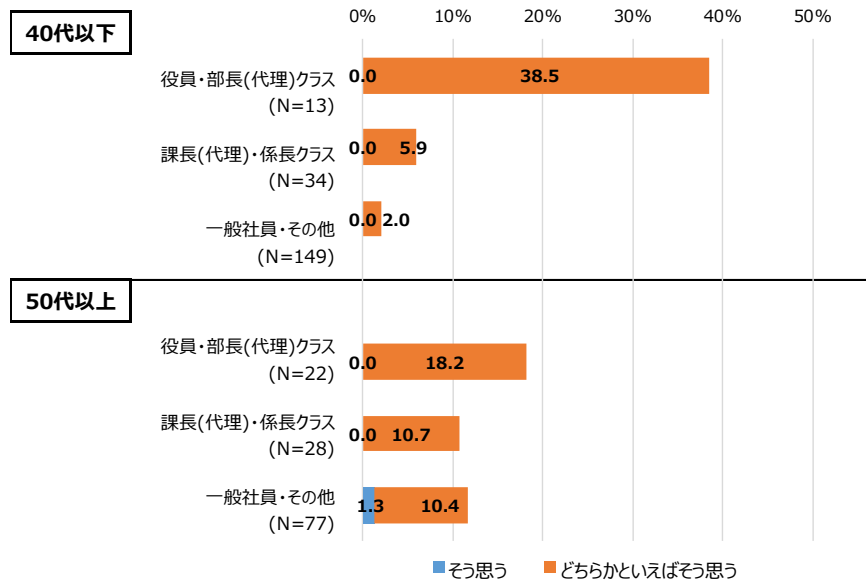
【受付、接客・応対(お茶だしなど)は女性の仕事だ】



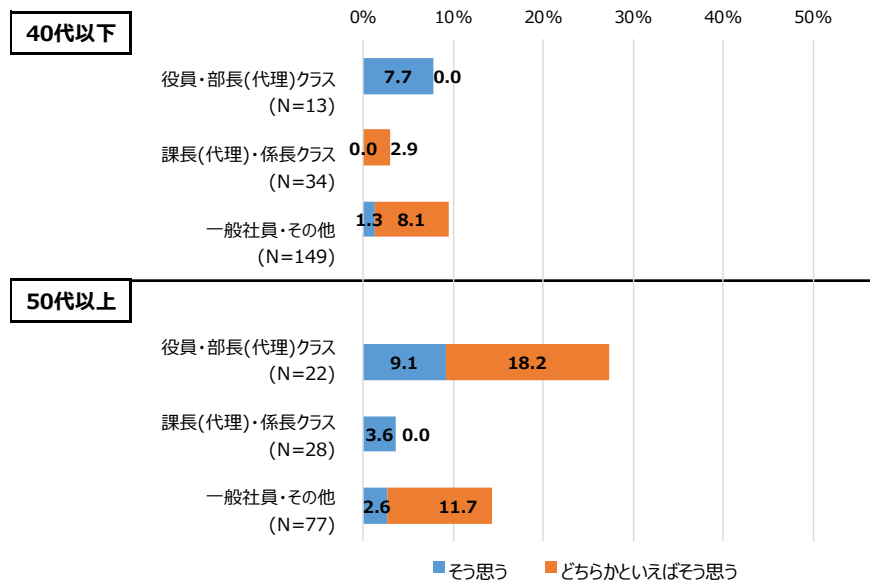
「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」は、役員・部長(代理)クラスで高く、特に 40 代以下の役員・部長(代理)クラスで高くなっている。

「女性の上司には抵抗がある」は、50 代以上の役員・部長(代理)クラスで特に高い。

【男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ】



【女性の上司には抵抗がある】



2 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

(1) 全体

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり聞いたりした経験」（以下、直接言われた経験）と「直接ではないが言動や態度からそのように感じた経験」（以下、言動や態度から感じた経験）の割合を示した。

すべての項目で、「直接言われた経験」よりも「言動や態度から感じた経験」の割合の方が高いという結果になった。「直接言われた経験」「言動や態度から感じた経験」ともに「家事・育児は女性がするべきだ」が最も割合の高い項目である。

「家事・育児は女性がするべきだ」「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」などは、「直接言われた経験」に比べ、「言動や態度から感じた経験」の割合が特に高い傾向がみられる。

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	直接言われた経験		態度から感じた経験		直接-間接
	回答者数：592	(%)	(%)	(%)	
1 家事・育児は女性がするべきだ		20.8	39.9	-19.1	
2 女性は感情的になりやすい		19.6	27.7	-8.1	
3 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		13.0	23.3	-10.3	
4 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ		12.8	29.1	-16.3	
5 家を継ぐのは男性であるべきだ		12.7	20.3	-7.6	
6 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		11.7	15.5	-3.8	
7 男性は結婚して家庭をもって一人前だ		11.1	18.1	-7.0	
8 女性には女性らしい感性があるものだ		11.0	14.9	-3.9	
9 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ		8.6	15.5	-6.9	
10 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ		8.4	21.1	-12.7	
11 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ		7.9	18.9	-11.0	
12 男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ		7.8	11.3	-3.5	
13 男性は人前で泣くべきではない		7.4	8.6	-1.2	
14 職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い		6.6	14.0	-7.4	
15 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ		6.4	15.0	-8.6	
15 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ		6.4	14.7	-8.3	
15 女性は論理的に考えられない		6.4	9.3	-2.9	
18 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		5.7	17.2	-11.5	
19 事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ		5.4	12.0	-6.6	
20 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		5.2	12.8	-7.6	
21 組織のリーダーは男性の方が向いている		4.9	16.0	-11.1	
22 職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ		4.4	9.8	-5.4	
23 男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない		4.2	10.3	-6.1	
24 男性なら残業や休日出勤するのは当たり前だ		4.1	8.8	-4.7	
25 男性が洗濯物を干すのはみっともない		3.5	10.1	-6.6	
26 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ		3.4	12.3	-8.9	
27 男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない		3.2	8.6	-5.4	
28 女性の上司には抵抗がある		3.0	8.3	-5.3	
29 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い		2.7	9.5	-6.8	
30 PTAには、女性が参加するべきだ		2.5	10.8	-8.3	
31 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない		2.4	6.3	-3.9	
32 学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている		2.2	7.6	-5.4	
32 転職は男性がするものだ		2.2	7.9	-5.7	
34 営業職は男性の仕事だ		2.0	4.1	-2.1	
35 同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ		1.9	8.1	-6.2	
35 女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない		1.9	5.9	-4.0	

「直接言われた経験」および「言動や態度から感じた経験」（図 1、2）について、北九州市と全国の結果を比較した。

北九州市において、「家事・育児は女性がすべきだ」「女性は感情的になりやすい」「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」の 4 項目については、順番に入れ替わりはあるが、「直接言われた経験」、「言動や態度から感じた経験」の両方に共通して上位 5 項目に入っている。

次に全国との比較である。「直接言われた経験」については上位 4 項目の内 3 項目が、「言動や態度から感じた経験」については上位 3 項目までは北九州市が高く、それ以降は全国の方が割合が高い傾向がみられた。「1 性別役割意識」（p.6～9）で見たように、性別役割意識については九州圏内および全国と比較して北九州市で最も数値が高く、「直接言われた経験」の上位項目も、北九州市で高い結果となった。一方で、上位項目を除いた項目については、全国の方が高い傾向が示された。

また、「直接言われた経験」および「言動や態度から感じた経験」ともに、北九州市の方が割合の高い項目は家庭・コミュニティ領域に関する言動や態度、ないしは「女性は感情的になりやすい」という感情に関する考えに限定されている。一方、職場で性別に基づく役割や思い込みを言われたり、聞いたりした経験があると回答した割合は、全国の方が高いとの結果になった。

<直接言われたり聞いたりした経験>（図 1, p.30）

多くの項目で北九州市と全国の間に大きな差はみられなかったが、「家事・育児は女性がすべきだ」（北九州市 20.8%、全国 13.2%）と「男性は人前で泣くべきではない」（北九州市 7.4%、全国 12.7%）の 2 項目に関しては、5 ポイント以上の差が開いた。

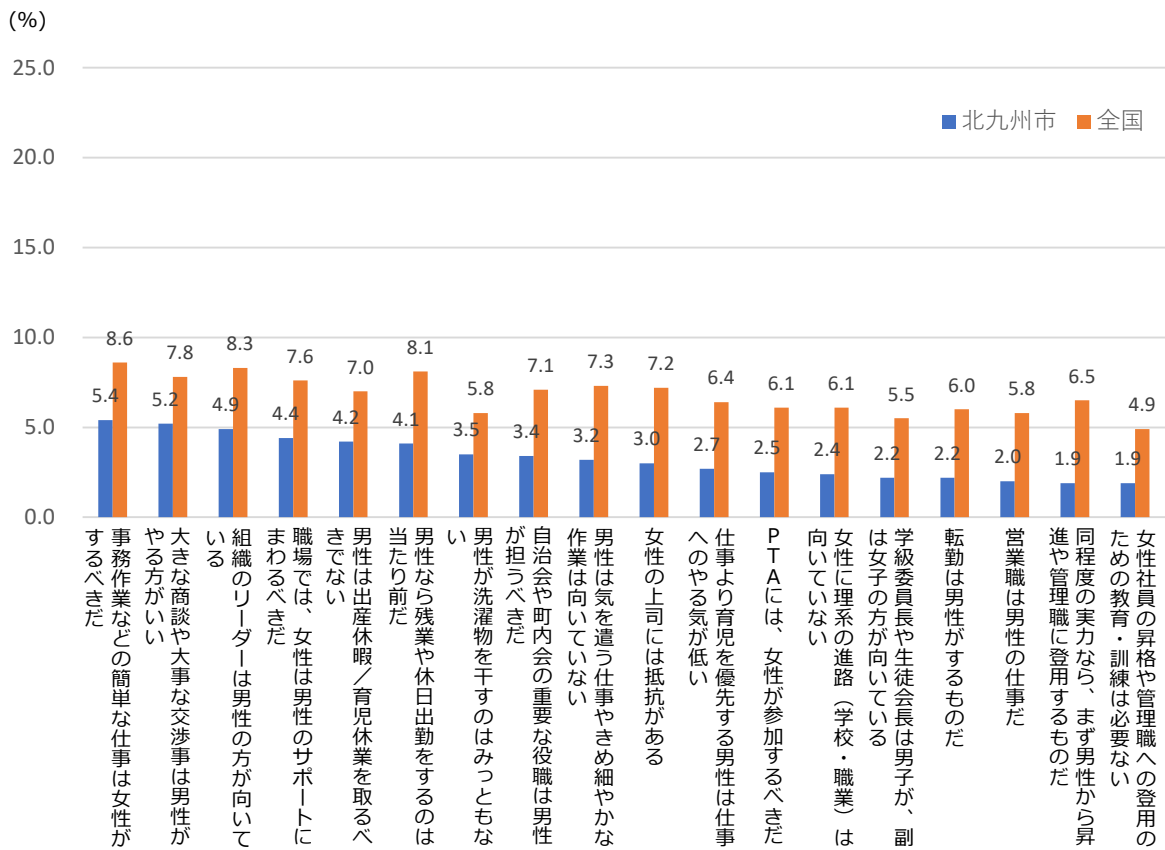
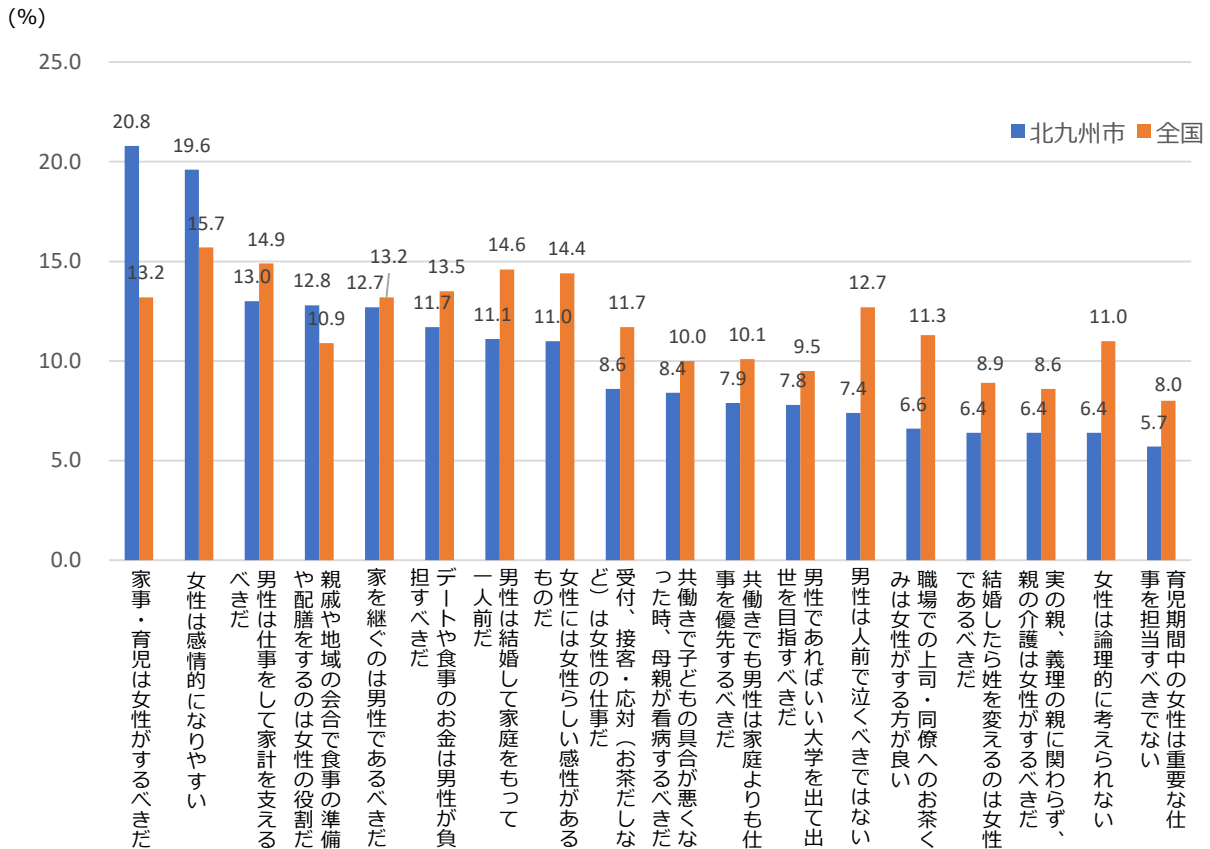
北九州市において上位 5 項目までに示された「家事・育児は女性がすべきだ」（北九州市 1 位、全国 6 位）、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（北九州市 4 位、全国 11 位）、「家を継ぐのは男性であるべきだ」（北九州市 5 位、全国 6 位）については、全国の上位 5 項目には入らなかった。

<直接ではないが言動や態度からそのように感じた経験>（図 2, p.31）

「直接言われた経験」と比べて、「言動や態度から感じた経験」の方が、北九州市と全国の間で差がみられる項目が多数あった。差が大きい順に 5 つ挙げると、以下の通りである。 ※（ ）は北九州市—全国

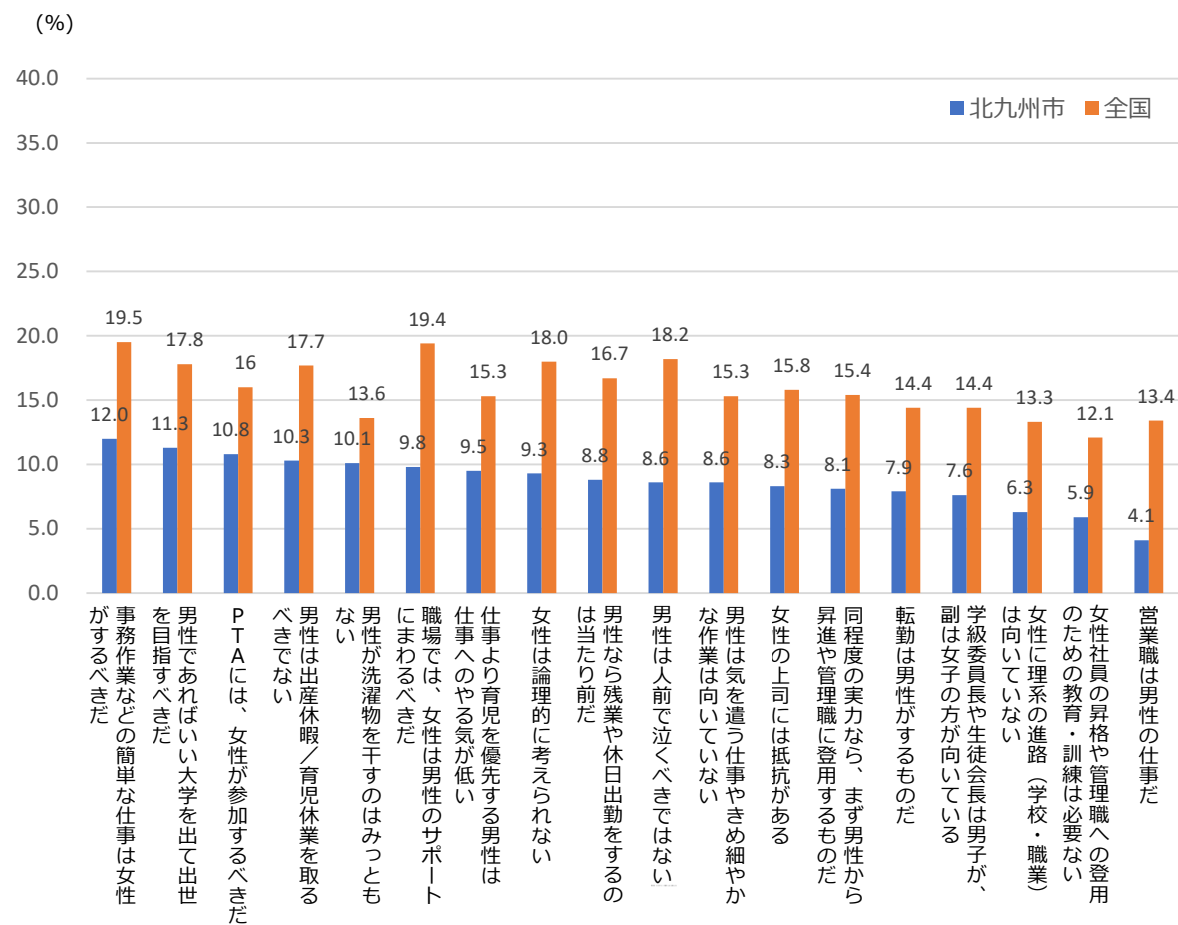
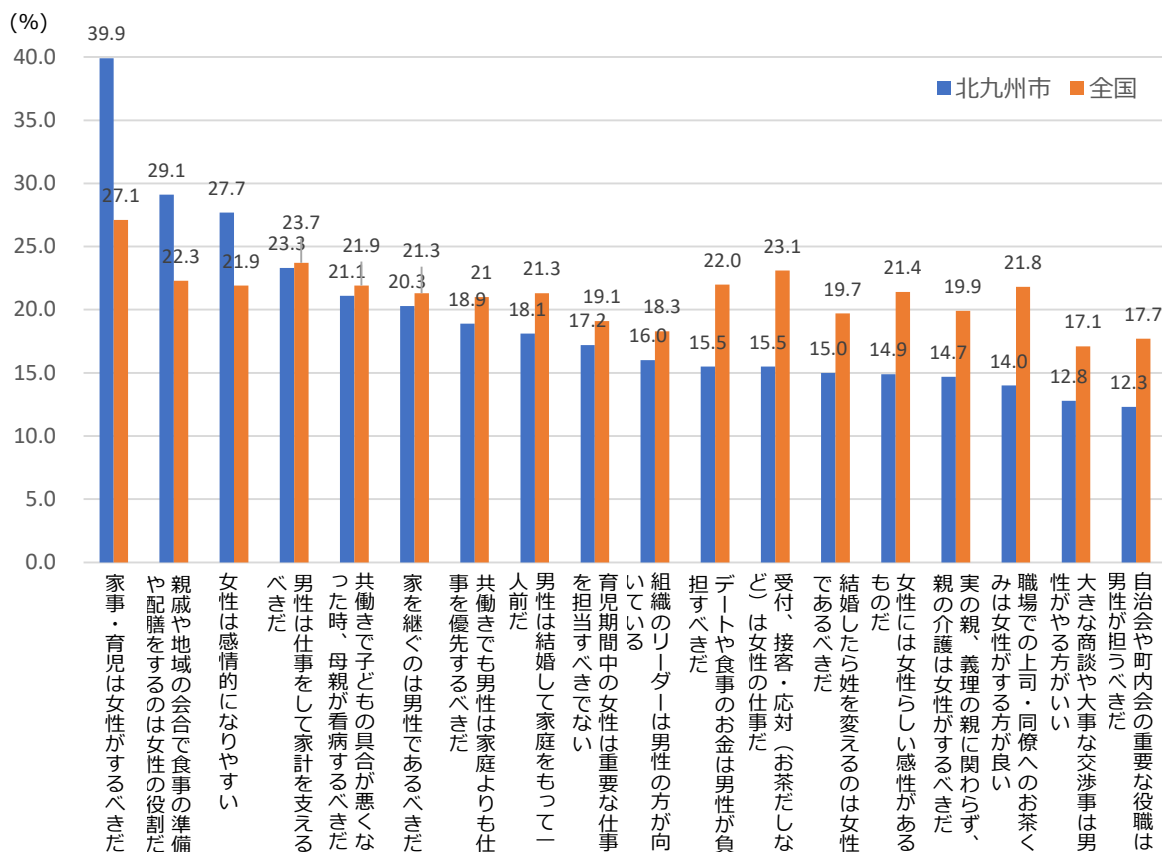
- 「家事・育児は女性がすべきだ」 北九州市 39.9%、全国 27.1%（+12.8%差）
- 「職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ」
北九州市 9.8%、全国 19.4%（-9.6%差）
- 「男性は人前で泣くべきではない」 北九州市 8.6%、全国 18.2%（-9.6%差）
- 「女性は論理的に考えられない」 北九州市 9.3%、全国 18.0%（-8.7%差）
- 「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」
北九州市 8.8%、全国 16.7%（-7.9%差）

図1 <直接言われたり聞いたりした経験>



回答者数：北九州市 592 全国 10,330

図2 <直接ではないが言動や態度からそのように感じた経験>



回答者数：北九州市 592 全国 10,330

(2) 男女別

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり聞いたりしたことがある」「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合が高い順に男女とも 10 位まで選出し、全国結果と比較した。

<直接言われたり聞いたりした経験>

男性より女性の方が総じて、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験があると回答している割合が高い。


男女差が 10 ポイント以上開いたのは、以下の 2 項目である。 ※ () は男性—女性

- 「家事・育児は女性がすべきだ」 男性 12.7%、女性 25.9% (-13.2%差)
- 「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」 男性 6.1%、女性 16.8% (-10.7%差)

どちらも家庭・コミュニティでの女性の性別役割意識を助長する考え方で、男性より女性の方が「直接言われた経験」があると回答した割合が高くなっている。

また全国結果と比べると、北九州市の女性において、「家事・育児は女性がすべきだ」と直接言われたり聞いたりしたことがあると回答した割合は 9.0 ポイント高い。同市の男性および全国の女性と比較しても、北九州市の女性は、高い割合で、家事・育児は女性が担うべきだと決めつけられた経験があると回答している。

一方で、女性の「女性には女性らしい感性があるものだ」や「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」は全国に比べて 6 ポイント前後低い。

 男女両方で上位 10 位に入っている項目

男性 上位10項目	北九州市 (%)	全国 (%)	北九州市—全国
1 女性は感情的になりやすい	16.2	11.3	4.9
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	14.8	13.6	1.2
3 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	14.0	14.2	-0.2
4 家事・育児は女性がすべきだ	12.7	9.4	3.3
4 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	12.7	13.1	-0.4
6 家を継ぐのは男性であるべきだ	10.0	11.1	-1.1
7 女性には女性らしい感性があるものだ	9.6	11.5	-1.9
8 男性は人前で泣くべきではない	9.2	12.5	-3.3
9 男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	7.9	8.6	-0.7
10 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	6.1	8.7	-2.6
10 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	6.1	6.9	-0.8

回答者数：北九州市 229 全国 5,069

女性 上位10項目	北九州市 (%)	全国 (%)	北九州市—全国
1 家事・育児は女性がすべきだ	25.9	16.9	9.0
2 女性は感情的になりやすい	21.4	19.9	1.5
3 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	16.8	14.9	1.9
4 家を継ぐのは男性であるべきだ	14.2	15.4	-1.2
5 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	11.7	16.3	-4.6
6 女性には女性らしい感性があるものだ	11.4	17.2	-5.8
7 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	11.1	15.7	-4.6
8 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	10.8	12.9	-2.1
9 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	10.3	13.9	-3.6
10 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	8.8	15.1	-6.3

回答者数：北九州市 351 全国 5,165

<直接ではないが言動や態度からそのように感じた経験>

「言動や態度から感じた経験」についても、男性より女性の方が総じて高く、その男女差は「直接言われた経験」よりも大きいという結果になった。

男女差が 15 ポイント以上開いたのは、以下の 3 項目である。 ※ () は男性—女性

- 「家事・育児は女性がするべきだ」 男性 30.1%、女性 45.6% (-15.5%差)
- 「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」
男性 17.9%、女性 36.2% (-18.3%差)
- 「女性は感情的になりやすい」 男性 17.9%、女性 33.0% (-15.1%差)

いずれも「女性は～べきだ」と女性が主語の性別役割意識に基づく言動や態度であり、それを女性自身が強く感じていることが分かる。

全国と比べると、女性の「家事・育児は女性がするべきだ」「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は特に高く、家庭における性別役割を女性が感じてきた傾向が強いことが分かった。

男女両方で上位 10 位に入っている項目

男性 上位10項目	北九州市 (%)	全国 (%)	北九州市—全国
1 家事・育児は女性がするべきだ	30.1	22.5	7.6
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	21.8	21.3	0.5
3 女性は感情的になりやすい	17.9	19.5	-1.6
3 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	17.9	18.6	-0.7
5 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	17.0	18.6	-1.6
6 男性は結婚して家庭をもって一人前だ	16.2	20.2	-4.0
7 家を継ぐのは男性であるべきだ	14.8	18.7	-3.9
8 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	14.0	20.5	-6.5
8 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	14.0	18.1	-4.1
10 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	12.7	16.5	-3.8
10 女性には女性らしい感性があるものだ	12.7	19.4	-6.7

回答者数：北九州市 229 全国 5,069

女性 上位10項目	北九州市 (%)	全国 (%)	北九州市—全国
1 家事・育児は女性がするべきだ	45.6	31.8	13.8
2 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	36.2	26.0	10.2
3 女性は感情的になりやすい	33.0	24.3	8.7
4 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	25.6	25.8	-0.2
5 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	24.2	26.2	-2.0
6 家を継ぐのは男性であるべきだ	23.4	23.9	-0.5
7 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	20.2	21.7	-1.5
8 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	19.9	23.4	-3.5
8 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	19.9	23.8	-3.9
10 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	19.7	26.7	-7.0

回答者数：北九州市 351 全国 5,165

(3) 男女別・年代別

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合を、男女別・年代別で示した。

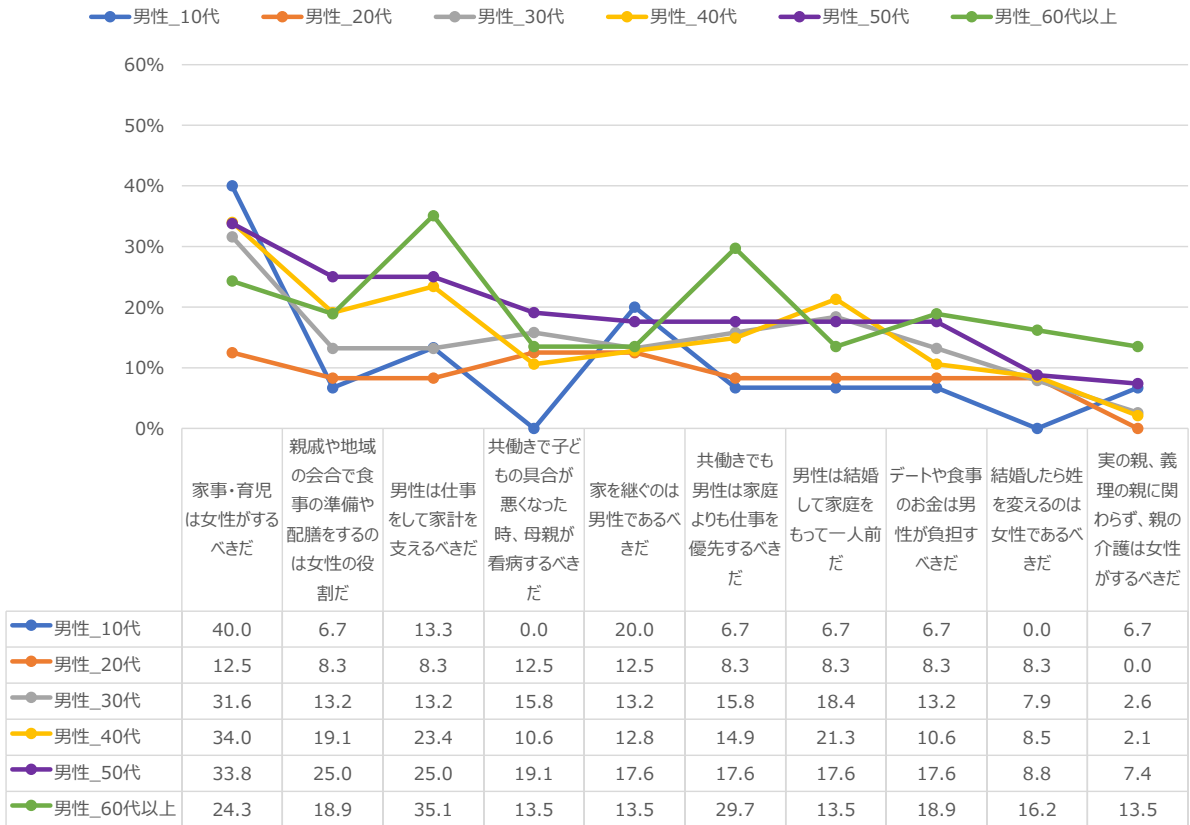
<家庭・コミュニティ領域（上位 10 項目）>

家庭・コミュニティ領域において、「言動や態度から感じた経験」は、男性に比べて、女性の方が総じて高い傾向がみられた。

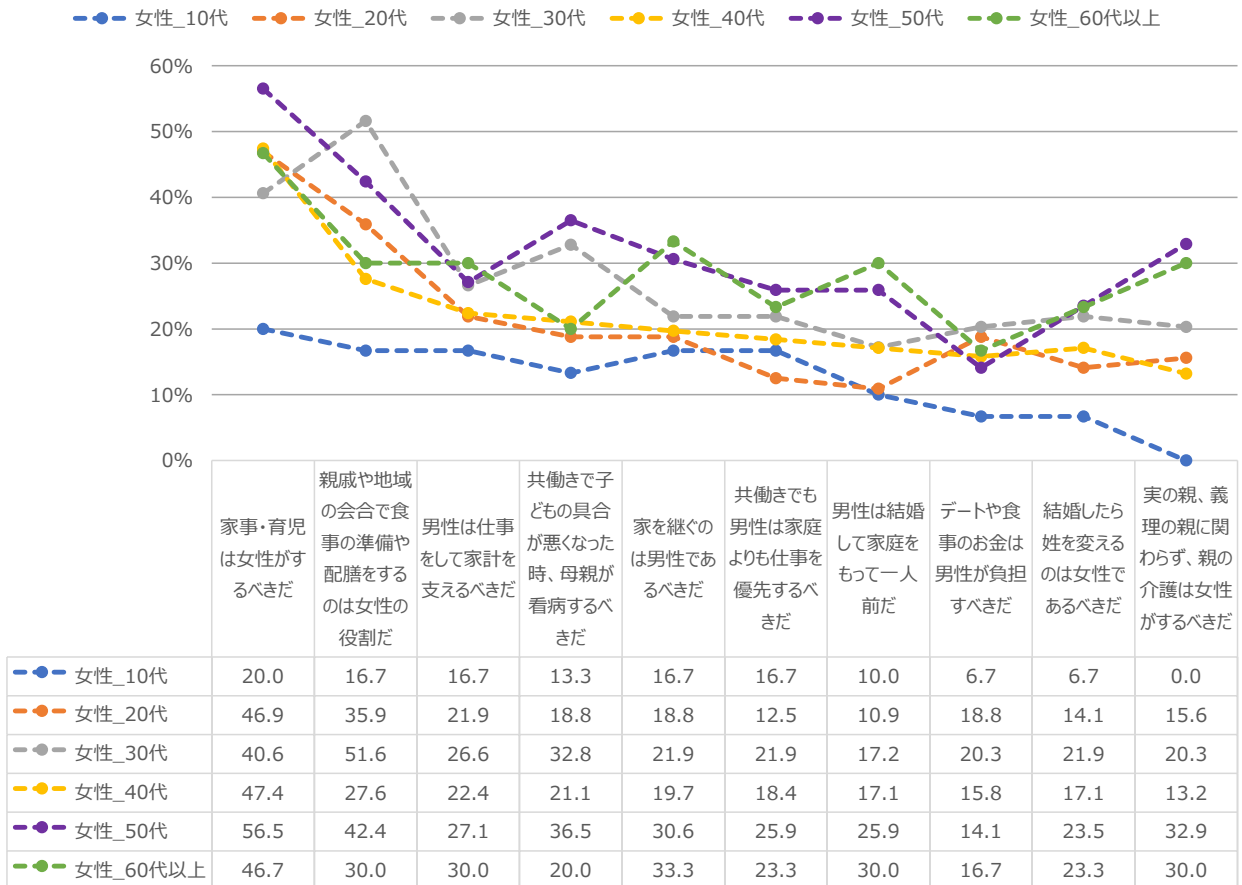
「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」と「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」の項目において、60 代以上の男性でそのように「感じてきた」傾向がみられた。周囲の言動や態度を感じ取り、男性が稼ぎ頭として家族を支えるべきという「大黒柱バイアス」を内面化してきたことがうかがえる。

また、全般に女性では 50 代以上や 30 代でやや高い傾向がみられた。一方、10 代や 20 代は他の年代に比べて低い傾向がみられ、また 40 代でも 30 代や 50 代と比較してやや低い傾向がみられた。今回の調査から、女性については、「言動や態度から感じた経験」について世代によって差異が生じる可能性が確認された。今後、その理由や背景について追加調査の必要があると考える。

<「言動や態度から感じた経験」の割合>



回答者数：10代 15 20代 24 30代 38 40代 47 50代 68 60代以上 37



回答者数：10代 30 20代 64 30代 64 40代 76 50代 85 60代以上 30

<職場領域（上位 10 項目）>

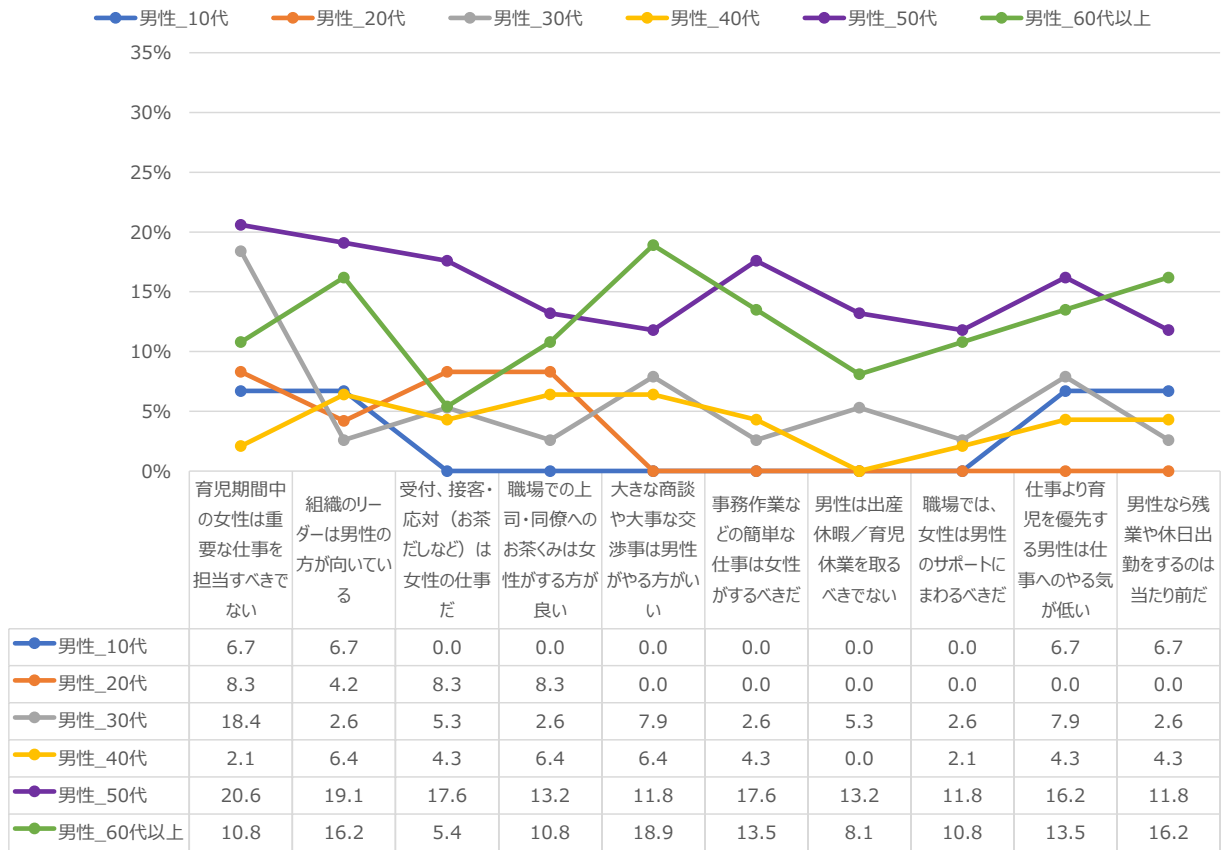
職場領域においても、男性に比べて、女性の方が総じて性別に基づく役割や思い込みを感じた経験があると回答した割合が高い。また、女性は年代間の差が男性に比べて大きいことも特徴である。職場領域において、女性に対する性別役割や思い込みが、時代と共に変化してきたことが背景にあると考えられる。

男女とも 50 代以上は、他の年代に比べて、性別に基づく役割や思い込みを感じてきた割合が高い。

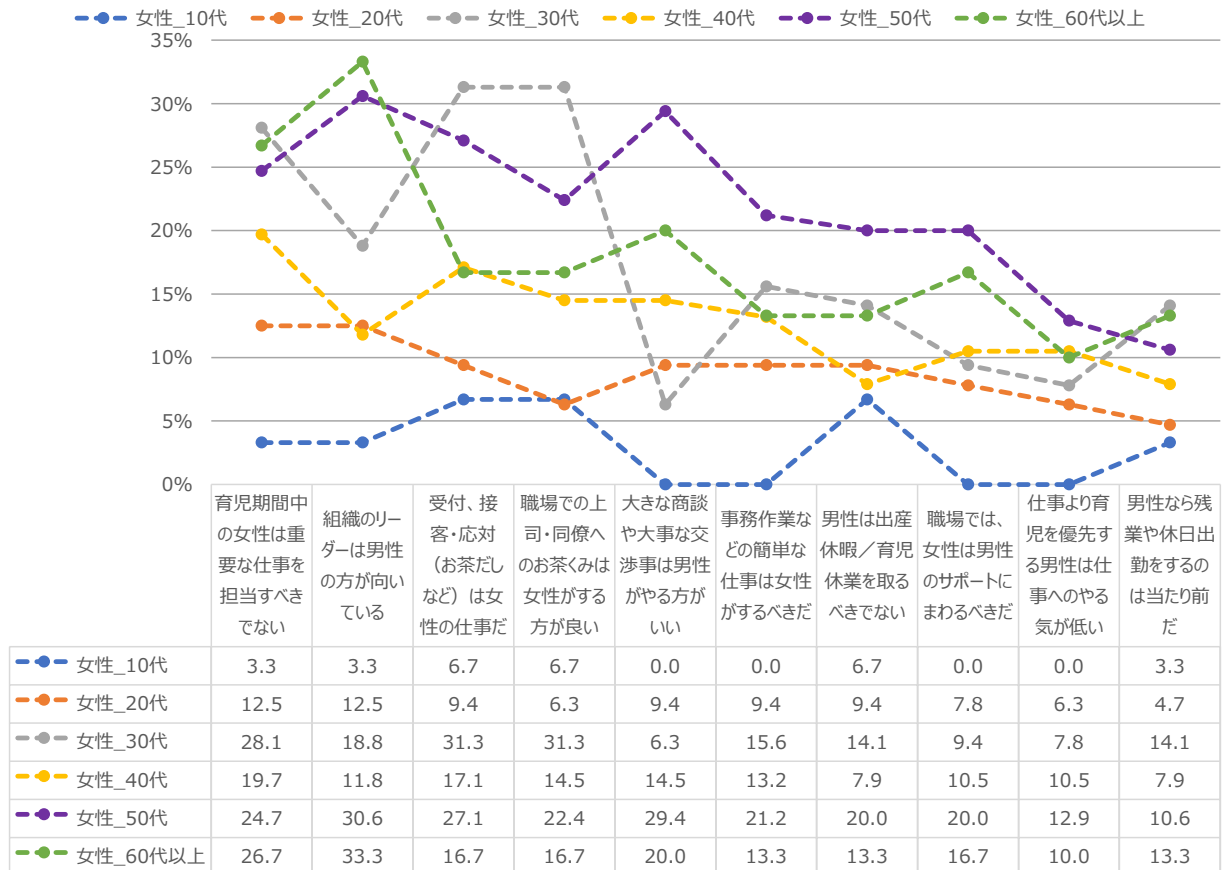
お茶だし・お茶くみに関する項目（「受付、接客・応対（お茶出しなど）は女性の仕事だ」と「職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い」）では、30 代女性の割合が特に高くなっている。

一方、同項目についての性別役割意識を問う設問（p.23）では、40～50 代男性と 50 代女性で高い割合がみられた。女性にお茶くみ・お茶だしを含めた接客・応対や受付を期待する考えは、特に 40～50 代男性と 50 代女性の中で根強くあり、実際に 30 代の女性が職場でそのような役割を求められていると感じていると考えられる。

<「言動や態度から感じた経験」の割合>



回答者数：10代 15 20代 24 30代 38 40代 47 50代 68 60代以上 37



回答者数：10代 30 20代 64 30代 64 40代 76 50代 85 60代以上 30

3 性別役割を感じさせた人

(1) 男女別

性別役割や思い込みについて、「直接言ったり言動や態度から感じさせた」人として、上位にあがった人の関係属性を男女別に分析した。

男女ともに、家庭・コミュニティ領域では「父親」「母親」が、職場領域では「男性の職場の上司」「男性の職場の同僚」から言われたり、感じたと回答した割合が多いという結果になった。

また、女性では、家庭・コミュニティ領域で「配偶者・パートナー」から性別役割を感じさせられた経験が多い傾向がみられた。

全体的に、男女共に、男性側から性別役割意識を感じさせられたと回答した割合が高いという結果になった。

<性別役割を感じさせた人（1位/1～3位項目数）>

男性	全体 (36項目中)		家庭・コミュニティ (16項目中)		職場 (15項目中)	
	1位 項目数	1-3位 項目数	1位 項目数	1-3位 項目数	1位 項目数	1-3位 項目数
男性の職場の上司	10	22	0	5	10	15
父親	10	21	9	14	0	6
男性の職場の同僚	8	18	0	2	6	14
母親	5	16	5	13	0	1
配偶者・パートナー	5	13	3	8	0	2
男性の知人・友人	3	13	3	8	0	5
女性の職場の同僚	3	10	0	0	1	7
女性の知人・友人	1	4	1	2	0	0
男性の教師など教育関係者	1	4	1	3	0	1
女性の職場の上司	1	4	0	0	0	3
女性の親戚	1	3	1	3	0	0
兄弟	0	7	0	1	0	5
男性の親戚	0	3	0	3	0	0
女性の教師など教育関係者	0	1	0	1	0	0

女性	全体 (36項目中)		家庭・コミュニティ (16項目中)		職場 (15項目中)	
	1位 項目数	1-3位 項目数	1位 項目数	1-3位 項目数	1位 項目数	1-3位 項目数
男性の職場の上司	15	20	0	3	14	15
配偶者・パートナー	7	19	6	10	0	4
父親	6	11	5	10	0	0
女性の知人・友人	3	5	1	3	0	0
母親	2	12	2	10	0	0
男性の職場の同僚	1	13	0	0	1	12
女性の職場の上司	1	12	0	0	0	10
男性の親戚	1	6	1	6	0	0
男性の教師など教育関係者	1	2	1	2	0	0
女性の教師など教育関係者	1	2	1	2	0	0
女性の職場の同僚	0	7	0	0	0	6
男性の知人・友人	0	5	0	3	0	1
女性の親戚	0	1	0	1	0	0
兄弟	0	0	0	0	0	0
姉妹	0	0	0	0	0	0
祖父	0	0	0	0	0	0
祖母	0	0	0	0	0	0

<男性>

	項目	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)
家庭・コミュニケーション	家事・育児は女性がするべきだ	父親 31.1	男性の知人・友人 28.9	配偶者・パートナー 20.0
	男性が洗濯物を干すのはみっともない	配偶者・パートナー 25.0	父親 母親 男性の親戚 男性の知人・友人 男性の職場の同僚	
	家を継ぐのは男性であるべきだ	父親 53.7	母親 44.4	男性の親戚 16.7
	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	父親 35.9	男性の職場の上司 31.3	母親 29.7
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	父親 40.0	母親 33.3	配偶者・パートナー 男性の知人・友人 13.3
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	父親 54.7	母親 44.0	男性の職場の上司 18.7
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	父親 39.6	男性の職場の上司 35.4	母親 22.9
	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	母親 37.5	父親 35.0	男性の職場の上司 30.0
	学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている	男性の知人・友人 28.6	配偶者・パートナー 男性の教師など教育関係者 女性の教師など教育関係者	
	女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	配偶者・パートナー 父親 母親 女性の親戚 男性の知人・友人 男性の教師など教育関係者		
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	父親 44.1	母親 26.5	男性の教師など教育関係者 男性の職場の上司 14.7
	PTAには、女性が参加するべきだ	配偶者・パートナー 母親 女性の知人・友人		
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	母親 30.2	男性の親戚 28.3	父親 女性の親戚 24.5
	自治会や町内会の重要な役割は男性が担うべきだ	父親 33.3	母親 27.8	配偶者・パートナー 男性の知人・友人 16.7
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	母親 27.8	兄弟 22.2	配偶者・パートナー 父親 女性の親戚 16.7
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	男性の知人・友人 43.9	女性の知人・友人 28.1	父親 男性の職場の同僚 15.8	
職場	組織のリーダーは男性の方が向いている	男性の職場の上司 32.3	男性の職場の同僚 29.0	父親 19.4
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	男性の職場の上司 33.3	配偶者・パートナー 父親 母親	
	事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ	男性の職場の同僚 42.3	男性の職場の上司 38.5	兄弟 男性の知人・友人 女性の職場の同僚 11.5
	職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	男性の職場の同僚 31.6	男性の職場の上司 21.1	配偶者・パートナー 女性の職場の同僚 15.8
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	男性の職場の同僚 37.8	男性の職場の上司 27.0	女性の職場の同僚 16.2
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	男性の職場の上司 36.4	男性の職場の同僚 31.8	父親 18.2
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	男性の職場の同僚 43.3	男性の職場の上司 36.7	父親 兄弟 男性の知人・友人 10.0
	営業職は男性の仕事だ	男性の職場の上司 男性の職場の同僚 38.5		兄弟 男性の知人・友人 15.4
	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	男性の職場の上司 37.0	男性の職場の同僚 25.9	男性の知人・友人 18.5
	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	男性の職場の上司 41.7	男性の職場の同僚 37.5	女性の職場の同僚 20.8
	転職は男性がするものだ	男性の職場の上司 28.6	兄弟 男性の職場の同僚 14.3	
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	男性の職場の上司 63.6	男性の職場の同僚 31.8	父親 18.2
	女性の上司には抵抗がある	男性の職場の同僚 36.8	女性の職場の上司 21.1	男性の職場の上司 女性の職場の同僚 15.8
	同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ	男性の職場の上司 31.3	男性の職場の同僚 25.0	父親 兄弟 男性の知人・友人 女性の職場の上司 男性の教師など教育関係者 女性の職場の同僚 12.5
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	男性の職場の上司 女性の職場の同僚 44.4		女性の職場の上司 男性の職場の同僚 33.3
その他	女性は感情的になりやすい	女性の職場の同僚 33.3	配偶者・パートナー 29.2	女性の知人・友人 25.0
	女性は論理的に考えられない	配偶者・パートナー 女性の職場の上司 男性の職場の同僚 女性の職場の同僚 22.7		
	男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない	男性の職場の同僚 35.0	男性の職場の上司 30.0	女性の職場の同僚 20.0
	男性は人前で泣くべきではない	父親 36.1	母親 22.2	兄弟 男性の職場の上司 16.7
女性には女性らしい感性があるものだ	配偶者・パートナー 39.1	母親 28.3	女性の知人・友人 23.9	

<女性>

	項目	1位	(%)	2位	(%)	3位	(%)
家庭・コミュニティ	家事・育児は女性がするべきだ	配偶者・パートナー	34.5	母親	29.6	男性の親戚	29.1
	男性が洗濯物を干すのはみとめない	配偶者・パートナー	30.2	父親	26.4		
	家を継ぐのは男性であるべきだ	男性の親戚	31.9	父親	29.3	母親	27.6
	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	父親	28.9	母親	26.5		
	結婚したら性を変えるのは女性であるべきだ	配偶者・パートナー	31.6	父親	27.6	母親	25.0
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	父親	52.9	母親	42.3	配偶者・パートナー	31.7
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	配偶者・パートナー	39.5	父親	33.7	男性の職場の上司	24.4
	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	配偶者・パートナー	41.9	母親	32.4	男性の職場の上司	16.2
	学級委員長や生徒会長は男子が、副は女子の方が向いている	男性の教師など教育関係者 女性の教師など教育関係者	28.9			男性の知人・友人 女性の知人・友人	10.5
	女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	父親	22.2	配偶者・パートナー 母親	18.5		
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	父親	36.5	母親	34.9	配偶者・パートナー	17.5
	PTAには、女性が参加するべきだ	配偶者・パートナー	31.9	女性の知人・友人	21.3	男性の教師など教育関係者 女性の教師など教育関係者	14.9
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	母親	38.4	女性の親戚	34.4	男性の親戚	31.8
	自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	父親	14.8	男性の親戚	13.1		
職場	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	母親	34.2	男性の親戚	30.3	父親	25.0
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	女性の知人・友人	53.5	配偶者・パートナー	33.8	男性の知人・友人	32.4
	組織のリーダーは男性の方が向いている	男性の職場の上司	39.2	男性の職場の同僚	24.3	男性の知人・友人	17.6
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	男性の職場の上司	35.5	男性の職場の同僚	21.0	配偶者・パートナー	16.1
	事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ	男性の職場の上司	45.5	男性の職場の同僚	34.5	女性の職場の上司 女性の職場の同僚	18.2
	職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	男性の職場の上司	59.6	男性の職場の同僚	27.7	女性の職場の上司	25.5
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	男性の職場の上司	35.5	女性の職場の上司	28.9	女性の職場の同僚	25.0
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	男性の職場の上司	43.4	男性の職場の同僚	32.1	配偶者・パートナー	17.0
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	男性の職場の上司	26.5	男性の職場の同僚	23.5	女性の職場の同僚	20.6
	営業職は男性の仕事だ	男性の職場の上司	38.9	女性の職場の同僚	22.2	配偶者・パートナー 女性の職場の上司	16.7
	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	男性の職場の上司	53.6	女性の職場の上司	38.1	男性の職場の同僚	20.2
	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	男性の職場の上司	50.6	女性の職場の上司	35.1	男性の職場の同僚	28.6
	転職は男性がするものだ	男性の職場の上司	38.2	女性の職場の上司	20.6	男性の職場の同僚	17.6
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	男性の職場の上司	47.5	男性の職場の同僚	32.5	配偶者・パートナー	22.5
女性の上司には抵抗がある	男性の職場の同僚	26.3	男性の職場の上司	21.1	女性の職場の上司	18.4	
同程度の実力なら、まず男性から昇進や管理職に登用するものだ	男性の職場の上司	43.2	男性の職場の同僚	29.7	女性の職場の上司	21.6	
女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	男性の職場の上司	34.5	女性の職場の上司	24.1	女性の職場の同僚	17.2	
その他	女性は感情的になりやすい	女性の知人・友人 女性の職場の上司	25.2			配偶者・パートナー	21.4
	女性は論理的に考えられない	配偶者・パートナー	30.2	男性の職場の上司	22.6	男性の知人・友人 女性の職場の上司 女性の職場の同僚	15.1
	男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない	男性の職場の上司	23.3	配偶者・パートナー 男性の職場の同僚	18.6		
	男性は人前で泣くべきではない	父親	50.0	母親	22.7	配偶者・パートナー	20.5
女性には女性らしい感性があるものだ	女性の知人・友人	37.0	母親	29.6	配偶者・パートナー	18.5	

4 地域における性別役割経験

(1) 地域からの移動有無別

成長過程における環境が、どのように性別役割意識に影響を与えているかを把握するために、中学校入学時点の居住地と現在の居住地の移動の有無別に、10～30代の女性の家庭・コミュニティ領域における性別役割意識および「直接言われた経験」を分析した。

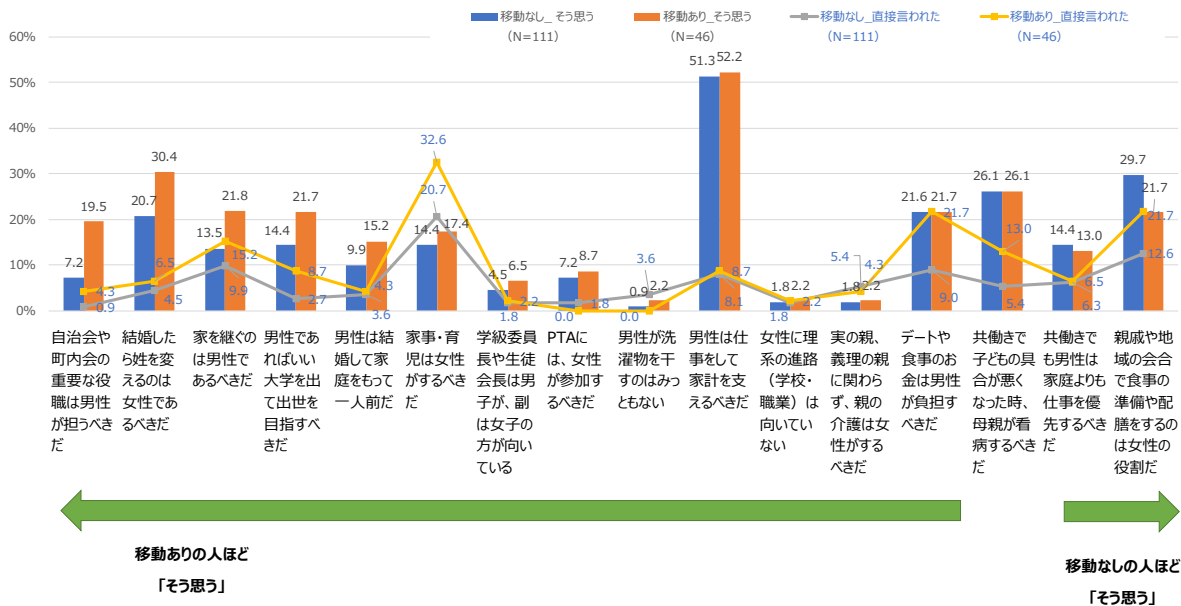
北九州市外から転入してきた若年女性（以下、若年女性転入層）の方が、性別役割意識が強い傾向にあることが明らかになった。特に「自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ」「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」「家を継ぐのは男性であるべきだ」等は、中学校入学時点での居住地が北九州市であった若年女性と比べ、ギャップが大きい。

また、全般的に若年女性転入層の方が、性別に基づく役割や思い込みを「直接言われた経験」を多くしてきた傾向もみられた。特に「家事・育児は女性がするべきだ」「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」は、中学校入学時点での居住地が北九州市であった若年女性よりも10ポイント以上高い。

若年女性転入層の方が、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験をしており、また性別役割意識も強いという傾向が明らかになった。

一方で「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」「共働きでも男性は家庭より仕事を優先すべきだ」の2項目については、中学校入学時点での居住地が北九州市である若年女性の方が性別役割意識が高いという結果になった。

＜中学校入学時居住地と現住所の移動有無別 10～30代女性＞



- 移動なし：中学校入学時点で住んでいたのが「北九州市内」
- 移動あり：中学校入学時点で住んでいたのが「市外」で、北九州市に転入してきた層

	(%)	自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	家を継ぐのは男性であるべきだ	男性であればいい大学を出て世を一人前だ	男性は結婚して家庭を一人前だ	家事・育児は女性がするべきだ	学級委員長は男子が副会長は女子の方が向いている	PTAには女性が参加すべきだ	男性が洗濯物を干すのはみっともない	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない	実の親、義理の親に問わず、親の介護は女性がするべきだ	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	共働きで合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	共働きでも男性は家庭より仕事を優先すべきだ	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
そう思う	移動なし(N=111)	7.2	20.7	13.5	14.4	9.9	14.4	4.5	7.2	0.9	51.3	1.8	1.8	21.6	26.1	14.4	29.7
	移動あり(N=46)	19.5	30.4	21.8	21.7	15.2	17.4	6.5	8.7	2.2	52.2	2.2	2.2	21.7	26.1	13.0	21.7
直接言われた	移動なし(N=111)	0.9	4.5	9.9	2.7	3.6	20.7	1.8	1.8	3.6	8.1	1.8	5.4	9.0	5.4	6.3	12.6
	移動あり(N=46)	4.3	6.5	15.2	8.7	4.3	32.6	2.2	0.0	0.0	8.7	2.2	4.3	21.7	13.0	6.5	21.7

- そう思う：性別役割意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答割合の合計
- 直接言われた：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合

中学校入学時点での居住地からの移動の有無にかかわらず、「家事・育児は女性がするべきだ」という考え方を支持する割合は全国に比べて低い。他方、直接または間接的に性別役割意識を感じた経験は全国に比べて高いとの結果になった。

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」は、移動の有無にかかわらず、性別役割意識および「言動や態度から感じた経験」は全国に比べて高いが、「直接言われた経験」は全国に比べて低い。

「男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ」は、若年女性転入層で性別役割意識が全国に比べて高い傾向がみられたが、中学校入学時点での居住地が北九州市の若年女性は全国よりも低い結果となった。

「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は、移動の有無にかかわらず、性別役割意識も、「直接言われた経験」、「言動や態度から感じた経験」についても、全国に比べて高い傾向がみられた。

<中学校入学時居住地と現住所の移動有無別 全国比較>

		家事・育児は女性がするべきだ		男性は仕事をして家計を支えるべきだ		男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ		親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	
		北九州市	全国	北九州市	全国	北九州市	全国	北九州市	全国
移動あり (北九州市N=46) (全国N=427)	そう思う	17.4	22.5	52.2	40.3	21.7	19.2	21.7	15.9
	直接	32.6	18.3	8.7	15.9	8.7	12.2	21.7	14.3
	間接	37.0	26.2	21.7	20.4	10.9	11.9	43.5	19.0
移動なし (北九州市N=111) (全国N=1,567)	そう思う	14.4	18.8	51.3	41.2	14.4	18.3	29.7	15.4
	直接	20.7	12.7	8.1	10.8	2.7	6.5	12.6	8.9
	間接	40.5	25.8	23.4	20.9	12.6	14.5	36.9	20.0

■北九州市は10～30代女性、全国は20～30代女性を対象として集計している。

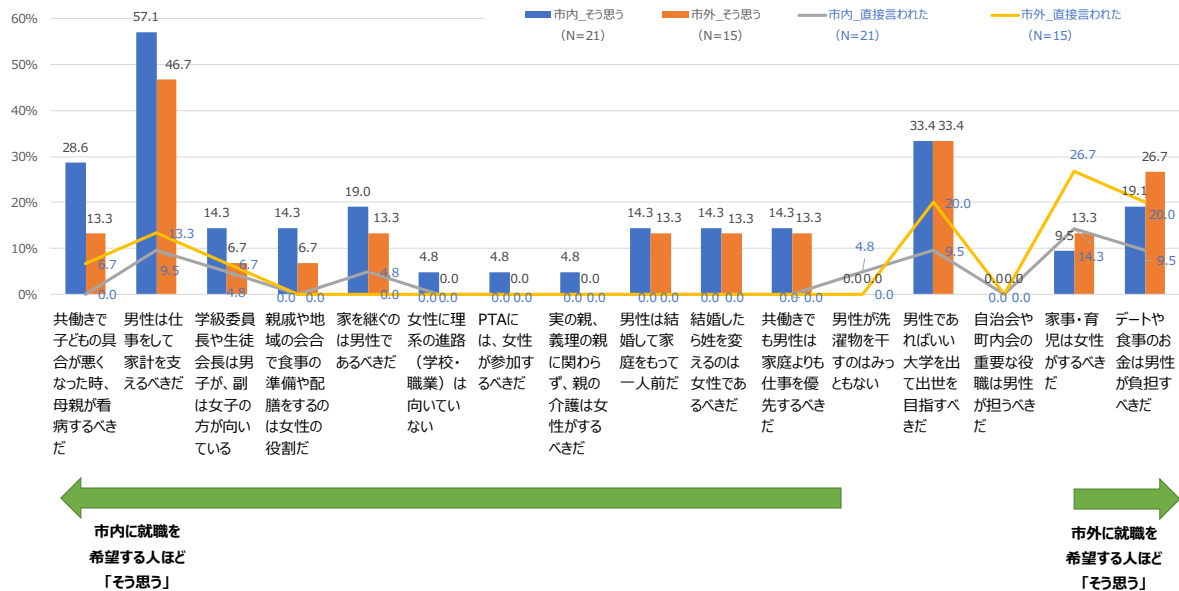
(2) 学生の就職希望地別

若年層の地方から大都市圏への転入超過が増大しており、地方において少子高齢化が課題となっている。アンコンシャス・バイアスが学生の就職希望地の選択に影響を与えるのではないかと推察し、学生（男女）の家庭・コミュニケーション領域における性別役割意識を就職希望地別に分析した。

特に「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」や「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」という性別役割意識については、市内に就職を希望する人の中で強い傾向がみられた。一方「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」と「家事・育児は女性がするべきだ」については、市外に就職を希望する人ほど強い傾向がみられた。

また、全般的に市外に就職を希望する人の方が、「直接言われた経験」をしたと回答した割合が高い。特に、「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」「男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ」「家事・育児は女性がするべきだ」「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」は市内に就職を希望する人より5ポイント以上高い結果となっている。

<学生の就職希望地別（男女計）>



		共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	学級委員長や生徒会長は男子が、副会長は女子の方が向いている	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	家を継ぐのは男性で（学校・職業）は女性に向いていない	女性の進路（学校・職業）は女性に向いていない	PTAには、女性が参加するべきだ	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	男性は結婚して家庭をもつ一人前だ	結婚したら女性であるべきだ	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	男性が洗濯を干すのはみっともない	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	家事・育児は女性がするべきだ	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
市内 (N=21)	そう思う	28.6	57.1	14.3	14.3	19.0	4.8	4.8	4.8	14.3	14.3	14.3	0.0	33.4	0.0	9.5	19.1
	直接言われた	13.3	46.7	6.7	6.7	13.3	0.0	0.0	0.0	13.3	13.3	13.3	0.0	33.4	0.0	13.3	26.7
市外 (N=15)	そう思う	0.0	9.5	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	9.5	0.0	14.3	9.5
	直接言われた	6.7	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	26.7	20.0

■ 市内：就職で希望する場所が「北九州市内」

市外：就職で希望する場所が「市外（出身地）」「市外（出身地以外）」

■ そう思う：性別役割意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答割合の合計

■ 直接言われた：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合

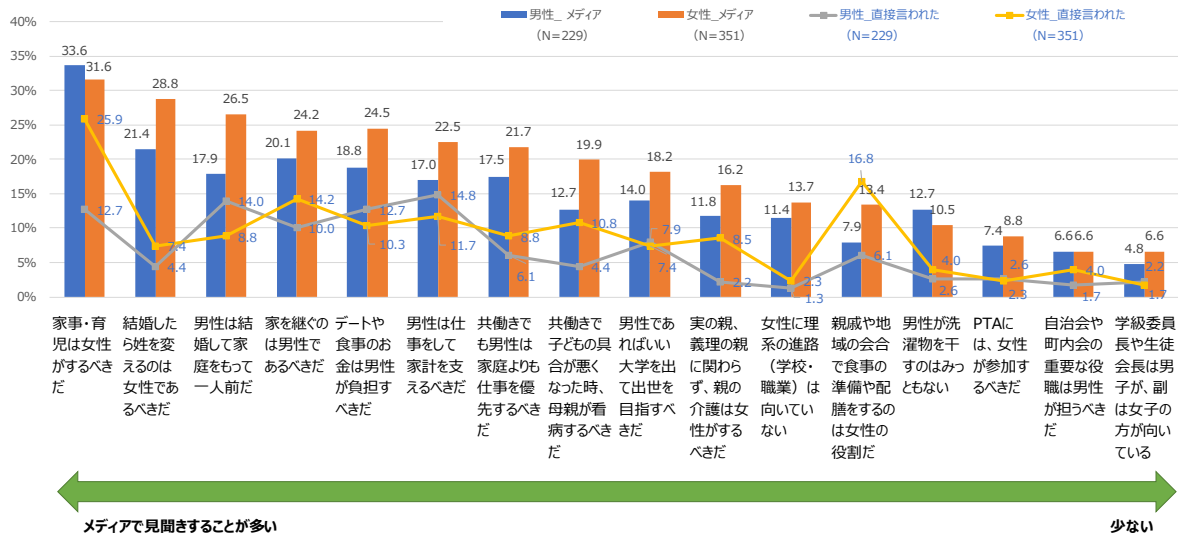
5 メディアにおける性別役割の影響

(1) 家庭・コミュニティ領域

家庭・コミュニティ領域および職場領域の両方において、全般的に男性に比べて女性の方が、メディアで性別役割や思い込みを見たり聞いたりすることが多い傾向がみられた。また、「直接言われた経験」の回答よりも「メディアで見たり」との回答割合の方が高く、メディアの影響力が大きいことが分かった。

メディアで見たり聞いたりすることが多いのは、「家事・育児は女性がすべきだ」「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」といった発言になった。

<メディアで見たことがある性別役割（家庭・コミュニティ領域）>



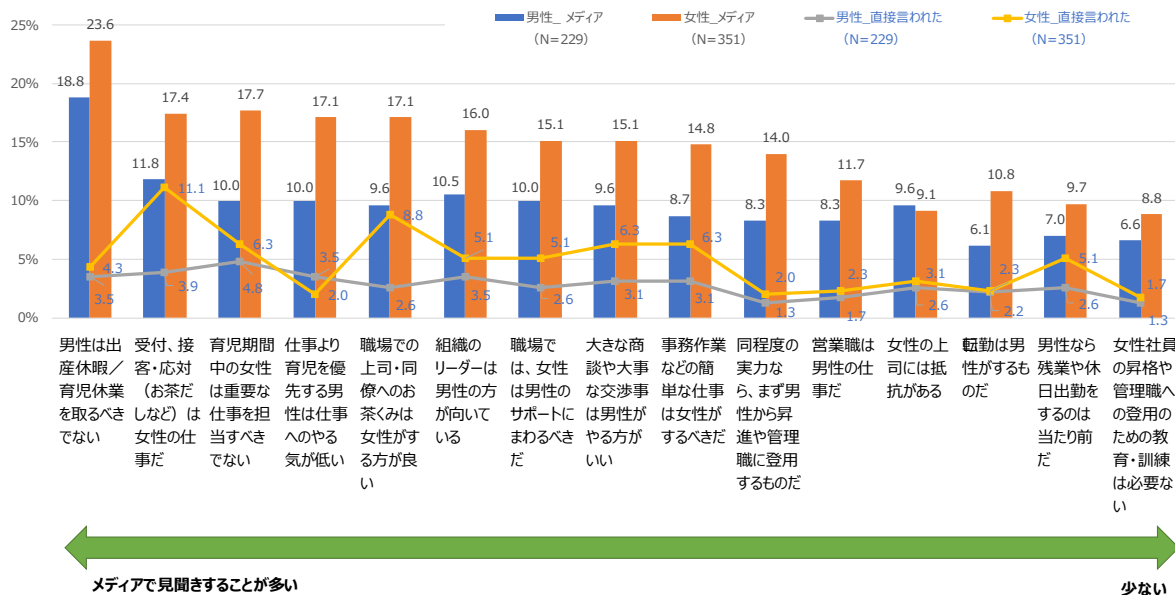
■メディア：「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」の回答割合

■直接言われた：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合

(2) 職場領域

職場においては「男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない」をメディアで見たり聞いたりすると回答した割合が突出して高い。

<メディアで見たことがある性別役割（職場領域）>



		男性は出 産休暇/ 育児休業 を取るべき でない	受付、接 客・対応 （お茶だ し）は女 性の仕事 だ	育児期間 中の女性 は重要な 仕事を担 当すべき でない	仕事より 育児を優 先する男 性は仕事 へのやる 気が低い	職場での 上司・同 僚へのお 茶くみは 女性が良 い	組織のリー ダーは男 性の方が 向いている	職場では、 女性は男 性のサポ ートにま わるべき だ	大きな商 談や大事 な交渉事 は男性が やる方が いい	事務作業 などの簡 単な仕事 は女性が するべき だ	同程度の 実力なら、 まず男性 から昇進 や管理職 に登用す るものだ	営業職は 男性の仕 事だ	女性の上 司には抵 抗がある	転勤は男 性がする ものだ	男性なら 残業や休 日出勤を するのは 当たり前 だ	女性社員の 昇格や 管理職へ の登用の ための教 育・訓練 は必要ない
メディア	男性(N=229)	18.8	11.8	10.0	10.0	9.6	10.5	10.0	9.6	8.7	8.3	8.3	9.6	6.1	7.0	6.6
	女性(N=351)	23.6	17.4	17.7	17.1	17.1	16.0	15.1	15.1	14.8	14.0	11.7	9.1	10.8	9.7	8.8
直接 言われた	男性(N=229)	3.5	3.9	4.8	3.5	2.6	3.5	2.6	3.1	3.1	1.3	1.7	2.6	2.2	2.6	1.3
	女性(N=351)	4.3	11.1	6.3	2.0	8.8	5.1	5.1	6.3	6.3	2.0	2.3	3.1	2.3	5.1	1.7

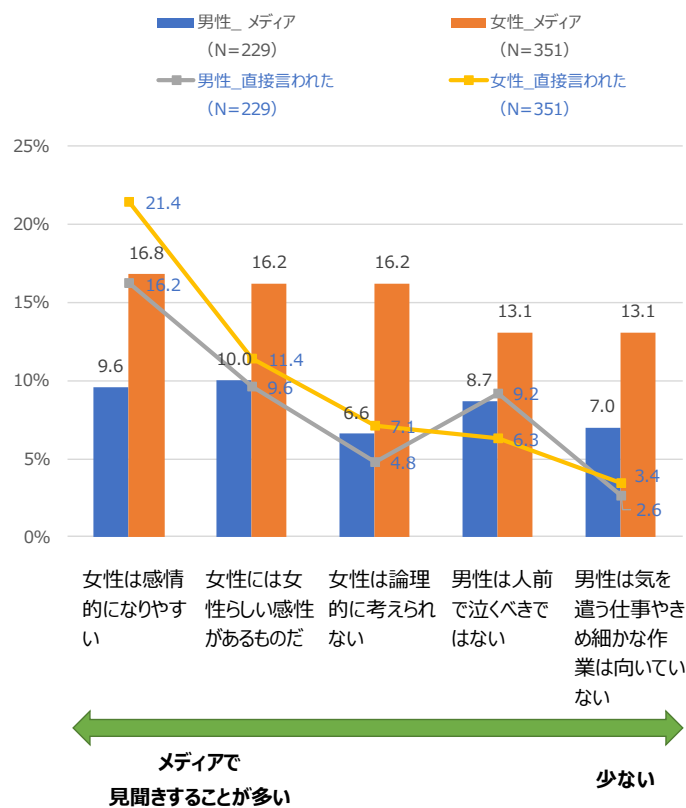
■メディア：「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」の回答割合

■直接言われた：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合

(3) その他思い込みによる決めつけ

「女性は感情的になりやすい」「女性には女性らしい感性があるものだ」で、特にメディアで見たり聞いたりすると回答した割合が高いという結果になった。

<メディアで見たことがある性別役割（思い込みによる決めつけ）>



		女性に感情的になりやすい	女性には女性らしい感性があるものだ	女性は論理的に考えられない	男性は人前で泣くべきではない	男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない
メディア	男性(N=229)	9.6	10.0	6.6	8.7	7.0
	女性(N=351)	16.8	16.2	16.2	13.1	13.1
直接言われた	男性(N=229)	16.2	9.6	4.8	9.2	2.6
	女性(N=351)	21.4	11.4	7.1	6.3	3.4

- **メディア**：「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」の回答割合
- **直接言われた**：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合

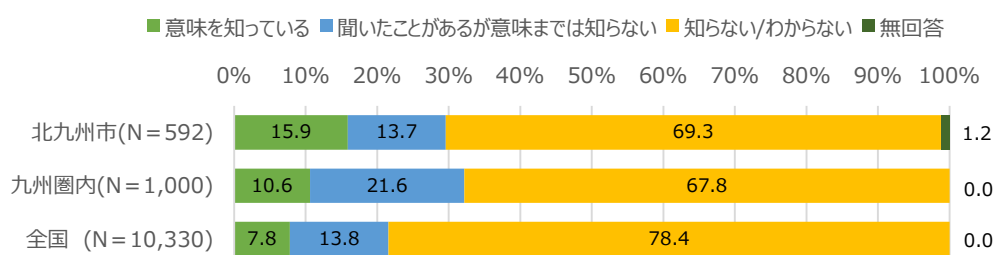
6 アンコンシャス・バイアスという言葉について

(1) 「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知状況

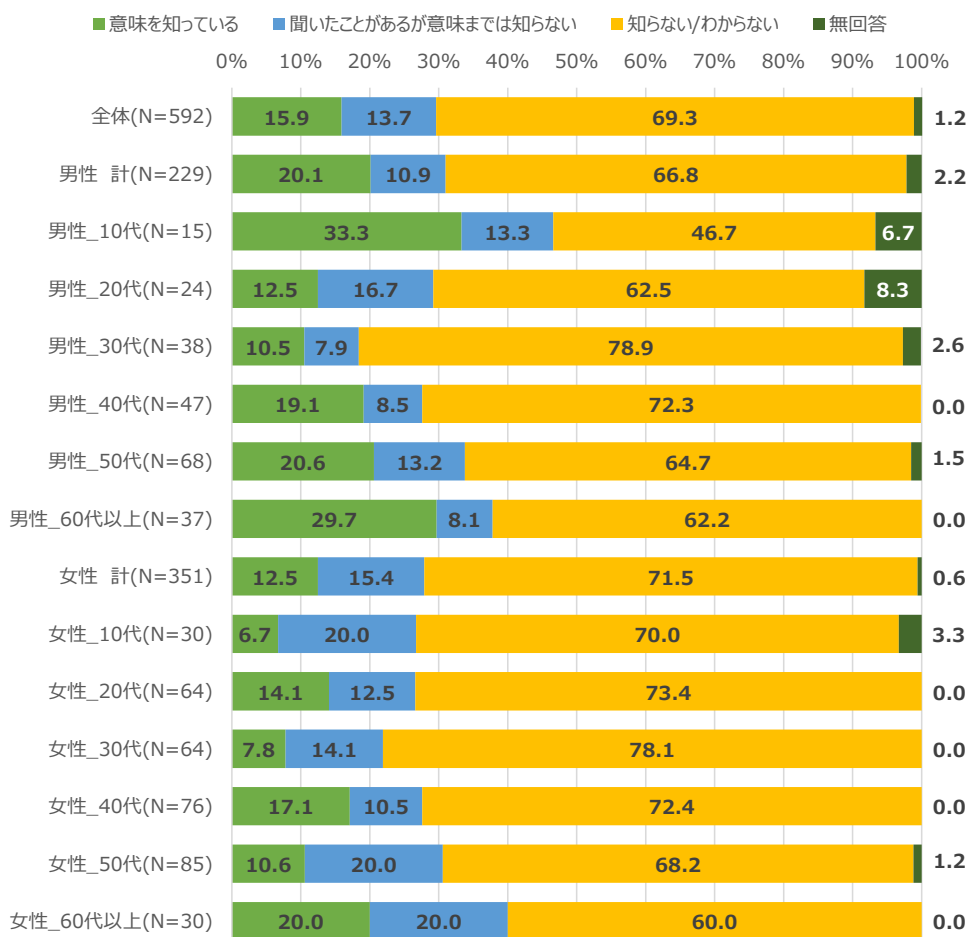
「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知状況を全国結果と比較した上で、北九州市の回答状況について、男女別・年代別に分析した。

「アンコンシャス・バイアス」という言葉について、「意味を知っている」のは15.9%、「知らない/わからない」が69.3%と約7割を占めた。全国に比べて「意味を知っている」と回答した割合は高いという結果になった。性別では、男性が20.1%、女性が12.5%と、男性の方が認知度は高い。また、男女別・年代別では10代男性と60代以上男性で認知度が高い傾向がみられた。

<認知状況（全国比較）>



<認知状況（男女別・年代別）>

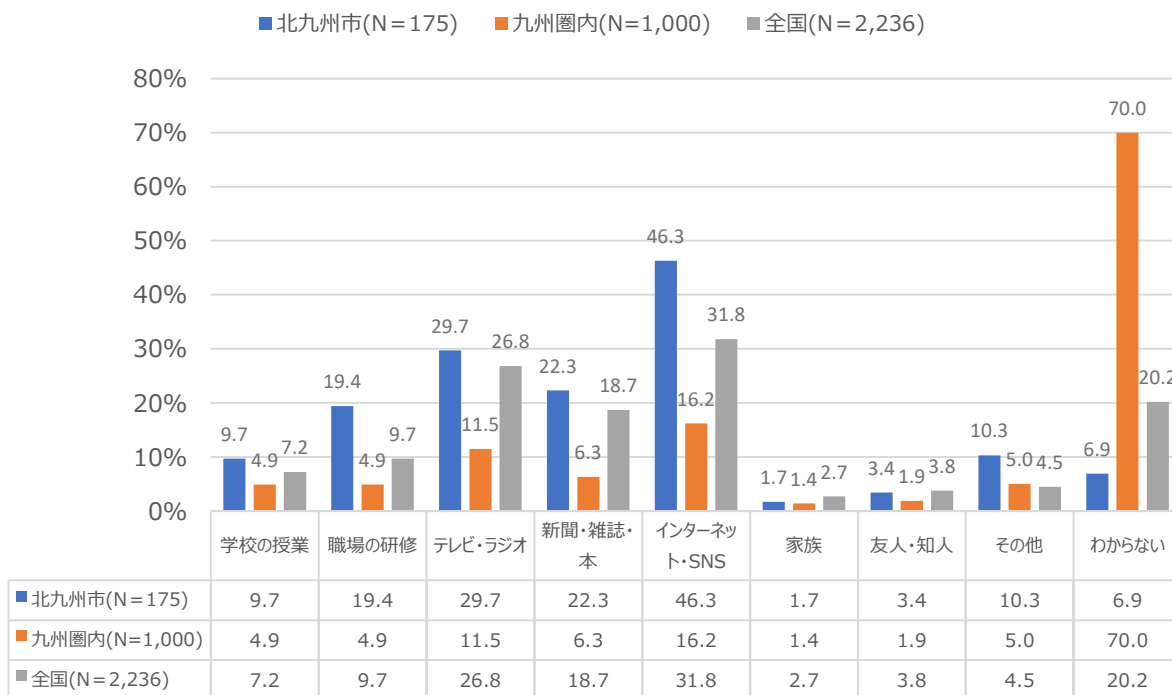


(2) 「アンコンシャス・バイアス」をどこで聞いたか

「アンコンシャス・バイアス」という言葉をどこで聞いたかを全国結果と比較した上で、男女別・年代別に示した。

「インターネット、SNS」で聞いたと回答した割合が特出して高いという結果になった。
 また、全国に比べ、「職場の研修」「インターネット、SNS」の割合が特に高く出ている。

<「アンコンシャス・バイアス」という言葉をどこで聞いたか（全国比較）>

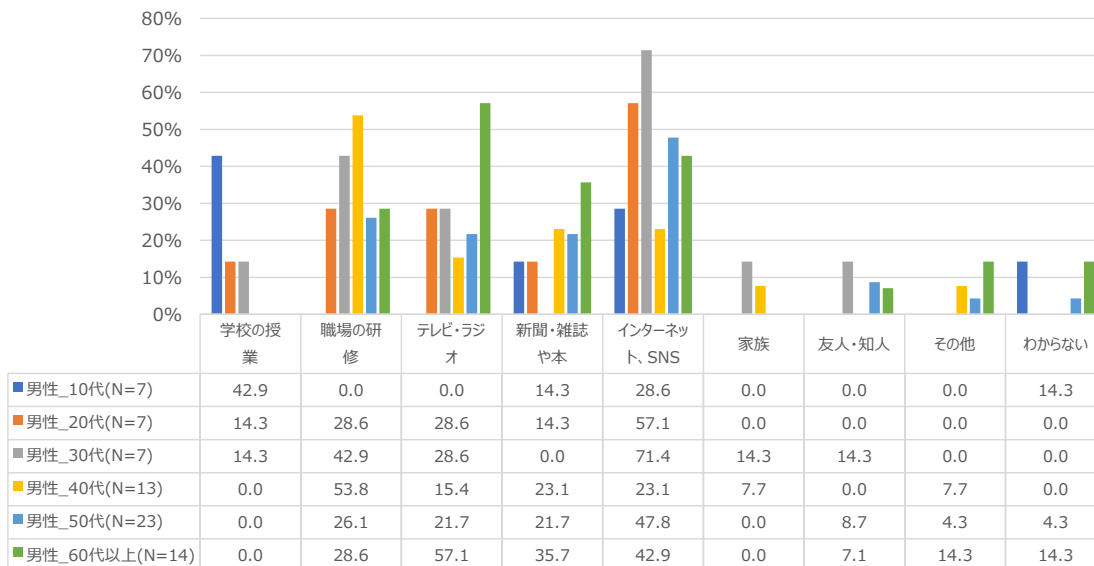


男女とも10代では「学校の授業」、20～30代は「インターネット、SNS」で聞いたと回答した割合が最も高い。40代男性は「職場の研修」、50代以上の女性と60代以上の男性では「テレビ・ラジオ」が特に高く、性別・年代ごとに情報源に異なる傾向がみられた。

<「アンコンシャス・バイアス」という言葉をどこで聞いたか（男女別・年代別）>

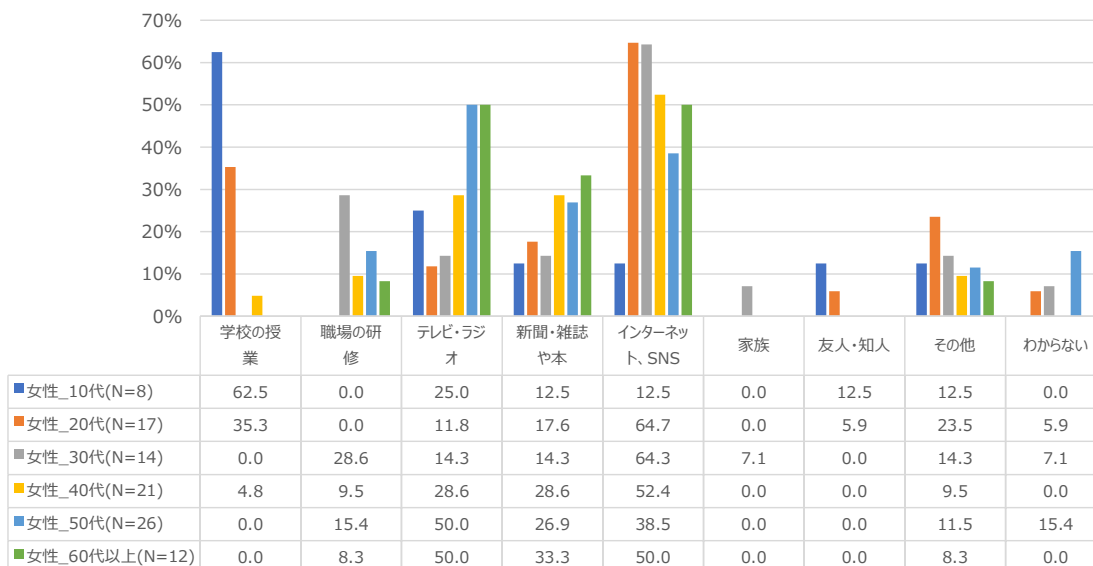
<男性>

■男性_10代(N=7) ■男性_20代(N=7) ■男性_30代(N=7) ■男性_40代(N=13) ■男性_50代(N=23) ■男性_60代以上(N=14)



<女性>

■女性_10代(N=8) ■女性_20代(N=17) ■女性_30代(N=14) ■女性_40代(N=21) ■女性_50代(N=26) ■女性_60代以上(N=12)



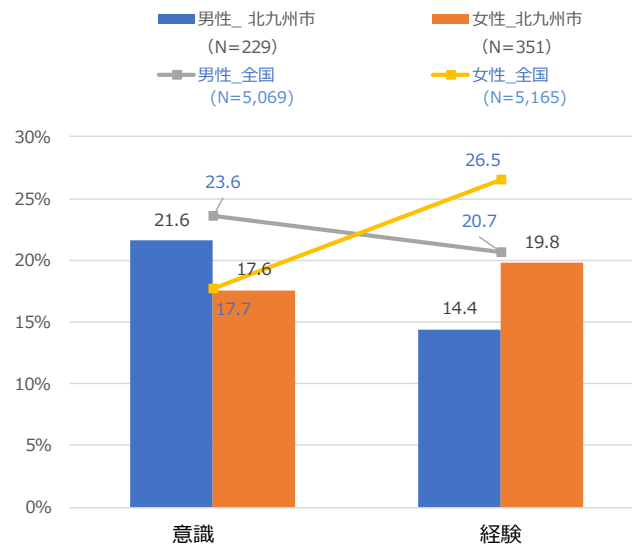
7 性別役割意識・経験の男女差比較

性別役割意識および性別に基づく役割を「直接言われた経験」または「言動や態度から感じた経験」の回答率について、全 36 項目の平均値を男女別に算出した。

全国の傾向と同様に、性別役割「意識」は男性が強い一方で、「直接言われた経験」「言動や態度から感じた経験」は女性の方が高い結果となった。

「直接言われた経験」「言動や態度から感じた経験」は男女とも全国と比較して低い。

<性別役割について意識および経験（男女別／全国比較）>



■ 意識 :

測定の 36 項目について、各項目「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答率の 36 項目平均 (%) を男女別に算出したもの

■ 経験 :

性別に基づく役割を「直接言われた経験」あるいは「言動や態度から感じた経験」の回答率の 36 項目平均 (%) を男女別に算出したもの

V まとめと今後の課題

今回の「北九州市における性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する市民意識調査」において九州圏内および全国と比較した結果、北九州市では性別役割意識が根強く存在していることが明らかとなった。特に、家庭やコミュニティにおける性別役割を求める意識が強くあり、アンコンシャス・バイアスに基づく発言を直接言われたり、言動や態度から感じた経験がある割合も、全国と比較して、北九州市の方が高いという結果になった。この背景には、男性が稼ぎ頭として家族を支えるべきとする「大黒柱バイアス」に基づく考え方や、女性が姓を変え、男性家長の家に嫁ぐという「家父長制的家族観」の存在も考えられ、今後、追加の調査が必要だと考える。

職場においては、女性活躍推進法や育児・介護休業法等の改正により、ジェンダーに基づく差別解消のための対応が企業にますます求められるようになってきている。その一方で、北九州市で性別役割意識が高く見られた家庭やコミュニティは、一般に、法的拘束力を伴う介入が難しい領域であり、今後、家庭・コミュニティでのアンコンシャス・バイアスの解消に向けた、より効果的なアプローチを検討する必要があると考えている。

また、性別役割や思い込みを「直接言ったり、言動や態度から感じさせた人」として、男女ともに「父親」や「男性の職場の上司」といった男性をあげる割合が高かった。第4次北九州市男女共同参画基本計画の「柱Ⅳ 男女共同参画意識が浸透した社会の実現」では「2 男性にとっての男女共同参画の推進」を施策の方向に掲げてきたが、更なる推進が必要である。

国の第5次男女共同参画基本計画の「第3分野 地域における男女共同参画の推進」では、まち・ひと・しごと創造総合戦略の観点から「近年、若い女性の大都市圏への転入超過や地方の都市部に周辺の地域から人口が流入」、「地方出身の若い女性が地元を離れるために東京で暮らし始める」との指摘がなされている。今回の調査においても、北九州市外から市内に移動を経験した若年女性の方が、より性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験をしており、また性別役割意識が強いという傾向が明らかとなる等の結果が得られた。このようなことから、北九州市の家庭・コミュニティにおける性別役割意識の高さと若年女性の市外転出の相関関係をより明らかにするためには、地域の特性や移動希望理由なども踏まえた、さらなる調査・分析が必要と考えている。

今回の調査結果をさらに分析・活用し、固定的な性別役割意識の気付きにつなげるとともに、アンコンシャス・バイアスの解消に向けた効果的な取り組みを進め、性別にかかわらず誰もが安心して暮らしやすい魅力的な地域づくりを推進していきたい。

北九州市における性別による無意識の思い込み
(アンコンシャス・バイアス) に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和5年3月

北九州市総務局女性の輝く社会推進室男女共同参画推進課
公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム

監修

牛房義明 (北九州市立大学経済学部教授)

下田泰奈 (北九州市立大学地域創生学群特任教員)

北九州市印刷物登録番号第 2208041A 号
